

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和30年 (1955) 及び 昭和31年 (1956)	S30. 4. 日本地質学会の夜間小集会 で災害地質に関する談話会が開かれる これが本会発足の端緒となる 出席者 10名 災害地質研究連絡会発足 (災害地質小委員会を改称) 事務局 京都大学理学部 会員 10名 S30. 9. 災害地質研究連絡誌 第1号発行	S30. 3. 火山物理研究会ニュースNo.1発行 5. 上椎葉ダム完成 戦後初のアーチ式ダム 堤高110m 堤長341m 6. 日本鉱物学会 地質学会より独立 11. 原子力研究所設立 S31. 4. 日本第四紀学会創立 4. 日本道路公団発足 5. 科学技術庁設置 資源調査会を付置 6. 工業用水法公布 7. 気象庁設置 (中央气象台改組) 10. 佐久間ダム竣工 堤高150m重力式 12. 日本火山学会創立 パターソン 鉛の同位元素から 地球の年齢をみつめる 45億年	S30. 5. 砂川闘争 5. 宇高連絡船紫雲丸衝突事故 8. 第2回原水爆禁止大会 広島 8. 旧海軍燃料廠払い下げ 石油化学工業の発展 11. 保守合同 自由民主党結成 S31. 8. 原子燃料公社設立 12. 国連総会 日本加盟可決 S30~S31 新潟 能代 大館 魚津で 焼失 1000戸以上の大火事
昭和32年 (1957)	4. 応用地質研究連絡会発足 (災害地質研究連絡会より発展) 事務局 京都大学理学部 世話人代表 志岐常正 会誌 災害地質研究連絡紙No.6 およびNo.7を発行 会員数 36名 12. 事務局を東京(地質調査所)に移転	3.31 特定多目的ダム法公布 4. 日本古生物学会 地質学会より独立 4.25 高速自動車国道法公布 5.20 技術士法公布 6.9 小河内ダム完成 堤高149m 堤長353m 7.25 諫早豪雨 日雨量1000mm以上 死者475名 行方不明489名 8.16 日本科学技術情報センター設立 8.27 東海村原子力研究所で“原子の火”点火	1.29 南極予備観測隊 オングル島上陸 「昭和基地」と命名 9. 本土縦断マイクロ波回線網完成 10.4 ソ連 初の人工衛星打ち上げ成功 11. 日本原子力発電株式会社発足 12.6 日ソ通商条約調印 12.28 NHKと日本テレビでカラーテレビ 実験放送を開始 なべ底不況
昭和33年 (1958)	1. 事務局 工業技術院地質調査所 世話人代表 尾原信彦 2. 会誌名を応用地質研究連絡紙に変更 災害地質研究連絡紙(昭和30年)より 通巻でNo.8号を発行 本時点をもって、日本応用地質学会設立 とする。 1.25 第1回研究連絡会 3. 第2回講演会 4.9 第3回講演会 5.6 第4回講演会 11.7 第5回研究連絡会 12.19 第6回講演会 会員数 141名	1.30 日本鉱山地質学会 地質学会より独立 2.1 粘土研究会創立 3. 地すべり等防止法公布 3.9 関門国道トンネル開通 全長3,461m 6.15 爆破地震研究グループ御母衣ダムで 大爆破観測 6~8 (仏) パチスカーフ FNR3号 日本海溝潜水調査 10.11 第一白龍号完成 (海上における最初の試掘) 11.20 建設省「河川砂防技術基準」作成	1.16 米 人工衛星打ち上げ成功 8.12 全日空DC3 下田沖で遭難 死者 33名 6.24 阿蘇山爆発 死者 12名 9.27 狩野川台風 死者 1189名 流失家屋 1044戸 11.27 皇太子明仁 正田美智子の婚約発表 12.1 一万円札発行 12.23 東京タワー完成(333m) 12. 公共用水域水質保全法 工場排水等 規制法公布 インスタント ラーメン登場

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和34年 (1959)	<p>1. 24 事務局 農林省農地局資源課 世話人代表 堀田正弘</p> <p>11. 13 例会</p> <p>12. 23 総会 会員数 161名</p>	<p>1. 30 海洋地質学小委員会設立</p> <p>2. 20 科学技術会議設置法公布</p> <p>2. 第2次道路整備5か年計画決定</p> <p>4. 20 国鉄東海道新幹線起工</p> <p>6. 17 首都高速道路公団発足</p> <p>6~9 気象庁 凌風丸 日本海溝調査</p> <p>11. 4 化石研究会発足</p> <p>12. 2 日本地下水学会発足</p> <p>マルパッセ (Malpsset) ダム崩壊事故</p>	<p>1. 1 メートル法実施</p> <p>4. 10 皇太子 美智子妃殿下御成婚</p> <p>9. 26 伊勢湾台風 死者・行方不明者 5,101人 被災者 1,532,954人</p> <p>9. 中国 大慶油田発見</p> <p>10. 4 ソ連 宇宙ロケット月の裏側撮影</p> <p>12. 1 三井三池争議はじまる</p> <p>東京に緑のおばさん登場 岩戸景気</p>
昭和35年 (1960)	<p>1. 事務局 電源開発株式会社 世話人代表 一杉武治 (S35~S39)</p> <p>3. 研究連絡紙No. 18に応用地質研究会会則を 掲載</p> <p>4. 27 第1回総会 応用地質研究会に名称変更 初代会長 広田孝一 (S35~40) 賛助会員制度採択 会誌名を「応用地質」に変更しタイプ オフセット印刷とする</p> <p>6. 29 第2回講演会</p> <p>12. 21 第3回講演会</p> <p>12. 21 応用地質 Vol.1 No. 1~4 発行 (No. 1~2はS30年の災害地質研究連絡紙 No. 1から本年3月の応用地質連絡紙No. 18までの再掲)</p>	<p>3. 15 日本科学技術振興財団発足</p> <p>6. 20 科学技術庁資源調査会 新潟の地盤沈下は地下水の大量揚水が原因と結論</p> <p>7. 地理調査所 国土地理院と改称</p> <p>11. 11 会長広田孝一氏 黄綬褒章を授与さる</p>	<p>1. 29 アラビア石油 クェート沖で第一号井成功</p> <p>2. 26 日向灘地震</p> <p>5. 24 チリ地震で三陸地方大津波 死者139人</p> <p>6. 23 日米安保条約発効 (60年安保闘争)</p> <p>9. OPEC (石油輸出国機構) 結成</p> <p>9. 10 カラーテレビ放送開始</p> <p>12. 27 閣議 国民所得倍増計画決定</p>
昭和36年 (1961)	<p>2. 1 第2回総会 委員を7名とする(現行4名) 会員数 260名</p> <p>4. 7 第1回講演会</p> <p>6. 15 第2回講演会</p> <p>9. 29 第3回講演会</p> <p>12. 20 第4回講演会 会誌「応用地質」 Vol.2 No. 1~4発行 (ただし No. 3・4 は合併)</p>	<p>1. 第3回国際地球観測委員会(パリ) UMP計画</p> <p>3. 国際地理連合(IUGS)創立総会(パリ)</p> <p>4. 海洋地質研究会発足</p> <p>4. 地震予知計画研究グループ結成</p> <p>7. 31 北陸トンネル貫通 全長12,869m (日本最長)</p> <p>9. 30 愛知用水完工</p> <p>10. 24 御母衣発電所竣工 電源開発(株) (1957.6.着工) 御母衣ダム ロックフィルダム 堤高 131m 有効貯水量 3億3000万m³</p> <p>11. 15 災害対策基本法公布 ヘス. デイーツ海洋底拡大説提唱</p>	

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和37年 (1962)	1. 31 第3回総会 会員数 308名 4. 27 第1回講演会 6. 29 第2回講演会 10. 16 第3回講演会 12. 14 第4回講演会 会誌「応用地質」 Vol. 3 No. 1~4発行 (ただしNo. 3・4は合併)	4. 1 運輸省 港湾技術研究所設置 4. 1 東京大学 海洋研究所設置 5. 1 水資源開発公団発足 5. 9~18 国際火山学会 (IAV) 開催 (東京・箱根・軽井沢) 6. 8 奥只見発電所竣工 7. アルキメデス号 (米) 日本海溝で9,545mに達す 9. 6 激甚災害法公布 9. 26 若戸大橋 (福岡県) 開通 全長 2,068m 東洋一 10. 19 新潟-東京間天然ガスパイプライン 全通 (335km) 東海大学 海洋学部設置 日本写真測量学会設立 日本国際地図学会設立	5. 3 常磐線三河島駅構内で二重衝突 (三河島事故) 6. ばい煙排出規制法公布 8. 12 堀江謙一 小型ヨットで太平洋横断 8. 30 戦後初の国産航空機 YS-11 初飛行に成功 9. 中国 勝利油田発見 10. 5 全国総合開発計画決定 11. 米 有人衛星第1号打ち上げ成功 A2型流感 患者47万人 世界最大のマンモスタンカー 日章丸進水 (13万トン)
昭和38年 (1963)	1. 31 昭和37年度定例総会 学会登録決議 会員数 348名 2. 1 日本応用地質学会と改称する (英語名 Society of Engineering Geology of Japan) 会計年度は毎年1月1日から12月31日までとする 事務局 電源開発(株)水力調査部 5. 17 第1回講演会 7. 8 第2回講演会 10. 26 第3回講演会 物理探鉱技術協会および 日本地下水学会と共催 12. 13 第4回講演会 会誌「応用地質」 Vol. 4 No. 1~4発行	3. 1 東京大学海洋研 淡青丸進水 4. 1 科学技術庁に防災科学技術センター設置 4. 3 日本地球化学学会設立 6. 5 黒部川第4発電所竣工 (1956. 7. 着工) 黒部ダム アーチダム 提 高 186m 有効貯水量 1億5000万m ³ 10. バイオント (Vajont) ダム 地すべり 10. 原子力研究所 動力試験炉 J P D R 初始動 松川で大深度試験に成功 プアインアシュウズ 海洋における 地磁気異常縞模様の説明 —海洋底拡大説の傍証—	1. 23 北陸地方に豪雪 (38豪雪) 1. 27 愛知大パーティ 北ア薬師岳で遭難 7. 12 閣議 13新産都市指定 8. 日本原子力船開発事業団発足 8. 5 一部核停止条約調印 (モスクワ) 9. 筑波研究学園都市 閣議了承 11. 日米間TV宇宙中継成功 (ケネディ大統領暗殺) 11. 9 三井三池坑炭じん爆発 死者 458名 11. 9 東海道線鶴見で二重衝突事故 死者 161名 (鶴見事故) ポップコーン登錫
昭和39年 (1964)	1. 29 日本応用地質学会定例総会 (学会として第1回研究会時代からの通算では第5回) 会員数 432名 5. 12 第1回講演会 7. 9 シンポジウム (第2回講演会はこれをもってかえる) 9. 10 第3回講演会 12. 25 日本応用地質学会臨時総会開催 (会則変更について) 会長1名 委員長1名 委員20~25名 監査委員2名 各任期は1年とする	1. 15 土木学会: 「土工学ハンドブック」 2. 1 国土地理院 国土基本図を 1/50,000 から 1/25,000に変更 3. 20 (社)土質工学会「土質試験法」 3. 23 日本鉄道建設公団発足 4. 10 首都高速 羽田海底トンネル貫通 全長300m 沈埋トンネル 4. 30 (社)土質工学会「土質調査法」 6. 16 新潟地震 (M7. 5) 地盤の液状化現象 7. 10 新河川法公布 10. 1 東海道新幹線開通 (東京-新大阪間) 日本粘土学会設立 岩石物性研究会発足 海洋地質研究会発足	大陸棚条約発効 シーラブ計画 (米) 水深58mに17日間居住 3. 7 アラスカ地震 4. 東京大学宇宙航空研究所発足 8. 東京異常渇水 1日15時間断水 10. 10 第18回オリンピック ~24 東京大会開幕 衛星中継 10. 16 中国 初の核実験 卓上電子計算機登場 重量25kg 価格53万5千円

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和40年 (1965)	1. 28 昭和40年度定例総会 委員長制度採用 初代委員長 伊崎 晃 事務局 国立防災科学技術センター 西川 泰 (S40~S48) 会員数 502名 4. 9 第1回講演会 7. 2 第2回講演会 10. 1 第3回講演会	ユネスコを主体とする国際水文10年 計画 (IHD) はじまる 3. 関東ローム研究グループ 「関東ローム」 7. 1 名神高速道路全線 189.8km供用 7. 4~18 E C A F E海底資源開発会議 (タイ) 8. 松代地震はじまる 11. 原研東海村発電所 初発電に成功 出力500kW ウィルソン トランスフォーム断層	6. 1 福岡県山野鉦でガス爆発 死者 237名 6. 12 阿賀野川流域で有機水銀中毒患者 見つかる 6. 22 日韓基本条約調印 10. 21 朝永振一郎 ノーベル物理学賞授賞 12. 10 日本 国連安保理事会の非常任理事国へ ビートルズブーム 日曜夕刊廃止 企業倒産増加
昭和41年 (1966)	1. 31 日本応用地質学会定例総会 新会長 斉藤正次 (S41~S43) 名誉会員制度採用 広田孝一 福富忠男 高田 昭の3氏推薦される 北海道支部発足 会員数 522名 3. 30 北海道支部第1回例会 4. 22 第1回講演会 7. 4 第2回講演会 10. 3 第3回講演会 12. 28 北海道支部例会及び講演会 12. 名古屋応用地質研究会誌 創刊 (名古屋応用地質研究会はS42年に東海地区支部となる)	4. 9 構造地質研究会発足 5. 日本科学者会議第1回全国大会 6. 20~7. 3 I U G S世界地図委員会 (パリ) 7. 東海発電所 営業運転開始 8. 20 上越線 新清水トンネル貫通 全長13,490m (日本最長) 8. 22~9. 8 第11回太平洋学術会議 (東京) 9. 25 山梨県足和田村に山津波 (台風26号) 10. 日本最初の地熱発電所 松川に完成 東大海洋研究所調査船 白鳳丸進水	2. 3 全日空機東京湾に墜落 この後 カナダ航空機 (3. 4) BOAC機 (3. 5) 全日空機 (11. 3) 等の大事故続発 3. 1 ソ連 金星3号 金星に到達 4. 26 交通共闘統一スト (戦後最大の交通ゼネスト) 8. 8 中国 文化大革命おこる 12. 9 建国記念日 2月11日復活 電子レンジ登場 ミニスカート全盛 マイカー元年 (1000ccクラスの ファミリーカー登場)
昭和42年 (1967)	1. 31 定例総会 新委員長 芥川真知 (S42~S43) 東海地方支部発足 会員数 583名 4. 7 北海道支部定例会及び講演会 4. 21 第1回講演会 5. 27 水文地質小委員会発足 本学会より小野寺 透氏参加 7. 4 第2回講演会 8. 北海道支部「蛇紋岩と工事に関する講演とシンポジウム」 10. 4 第3回講演会 12. 22 第4回講演会 12. 「応用地質」 Vol. 8 No. 4に 地質技術士試験問題集を掲載	5. 8 第1回国際地球化学会議 (パリ) 5. 27 第1回水文地質委員会 9. 23 国際火山学会 (I A V) を国際火山学地球 内部化学会 (I A V C E I) と改組 10. 2 万泊開発公団発足 10. 2 動力炉核燃料開発事業団発足 (原子燃料公社の改組)	3. 米 サーベイヤー3号 月の土壌 写真を電送 6. アラブ諸国 対米英石油禁輸 6. 中国 水爆実験 8. 27 ユニバーシアード東京大会 8. 28 羽越豪雨 死者138名 9. 11 米 サーベイヤー5号 月の表面 化学分析 玄武岩に近似 10. 8 ソ連 ロケット金星に軟着陸成功 ボーリングブーム 炭坑の閉山が相次ぐ

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和43年 (1968)	1. 30 定例総会 会員数 603名 2. 13 第60回日本応用地質学会委員会 委員の分担を企画 編集 行事 庶務の4部門とする 4. 25 第1回講演会 9. 12 第2回講演会 11. 26 日本応用地質学会講演会	4. 尾張大橋開通 日本一の斜張橋 4. 霞が関ビル完成 日本初の超高層ビル 4. 1 日本地質学会75周年記念大会 6. 1 科学技術庁資源調査所設置 (資源局廃止) 7. 29 日本海洋資源開発技術協力会議 ～8. 2	2. 21 えびの地震 3. 12 東大医学部紛争 この頃より各大学で紛争激化 4. 1 日向難地震 5. 16 十勝沖地震 (M7. 8) 6. 大気汚染防止法 騒音規制法公布 6. 26 小笠原諸島返還 8. 8 日本初の心臓移植手術 8. 18 土砂崩れの為に観光バス2台が飛騨川へ転落 10. 17 川端康成 ノーベル文学賞 10. 21 全学連新宿駅占拠 騒乱罪適用 11. 原子力船「むつ」起工式 12. 10 府中市で3億円強奪事件 イタイ・イタイ病 新潟水俣病 熊本水俣病を公害病と認定
昭和44年 (1969)	1. 29 定例総会及び記念講演会 新会長 田中治雄 (S44～S47) 会員数 625名 3. 4 新委員長 倉持文雄 (S44～S47) 3. 会誌「応用地質」の活版化により広告掲載を始める 国際地質工学連合 (A I E G) の日本代表に田中会長	3. 20 科学技術庁潜水調査船「しんかい」竣工 4. 1 骨材資源工学会設立 4. 24 地震予知連絡会設置 5. 26 東名高速道路全線開通 全長346. 7km 6. 25 東京地学協会90年史「地学雑誌」 9. 5 国際粘土学会議 9. 8 地下水資源及び人工地下水に関する 専門家会議 (ニューヨーク) 9. 11～16 第1回国際地質対比計画(IGCP)会議(ブタペスト) 9. 17～20 ユネスコ主催 地盤沈下に関する国際シンポジウム (東京) 米深海掘削船 グロマーチャレンジャー号活動	1. 15 千葉県野島崎沖で5万トン級 鉱石運搬船「ぼりびあ丸」沈没 1. 18 東大安田講堂事件 ～19 3. 12 東京に大雪 積雪30cm 3. 23 八郎潟干拓事業完了 5. 新全国総合開発計画 閣議決定 6. 12 原子力船「むつ」進水 7. 21 米 アポロ11号 月面着陸 人類の第1歩 10. 1 宇宙開発事業団発足 グリーン車登場
昭和45年 (1970)	1. 30 定例総会及び講演会 立岩 巖氏 名誉会員に推薦される 会員数 681名 4. 16 北海道支部例会, 物理探鉱技術協会 北海道支部共催 10. 8 講演会	2. 20 地震予知連で地震観測強化地域と特定 観測地域を設定 3. 16 U J N Rの海洋工学委員会合同会議 (東京) 3. 24 学会名誉会員 福富忠男氏逝去 7. 1 本州四国連絡橋公団発足 8. 25～9. 6 第7回国際鉱物学会議 鉱床学会議 (東京, 京都) 9. 22～10. 1 国連地熱開発利用シンポジウム(ピサ) 9. 28～10. 5 水資源開発会議 (バンコク) 10. 2 山陽新幹線六甲トンネル開通 全長16, 250m 市川浩一他「日本列島構造発達史」	2. 11 東大人工衛星「おおすみ」 打ち上げ成功 3. 31 赤軍源学生 日航機「よど号」乗っ取り 3. 14～9. 14 日本万国博覧会 (大阪) 7. 光化学スモッグ発生 11. 北海でフォーティズ油田発見 11. 25 三島由紀夫 市ヶ谷の自衛隊で割腹自殺 12. 公害関係14法案成立 農薬汚染, ヘドロ公害等の産業公害多発 フライドチキン登場

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和46年 (1971)	<p>1. 29 定例会議及び講演会 関西支部発足 役員の任期を2年とする 会員数 700名</p> <p>1. 22 北海道支部総会及び講演会</p> <p>5. 8 関西支部第1回総会及び講演会</p> <p>7. 16 応用地質座談会</p> <p>11. 26 新潟応用地質研究会開催</p>	<p>2. 国連第1回天然資源常設委員会 ～3. (ニューヨーク)</p> <p>7. 1 総理府に環境庁設置</p> <p>8. 18 第12回太平洋学術会議(キャンベラ) ～27 国際水文地質学会アジア地域会議 (IAH) 東京</p> <p>11. 11 川崎市生田のがけ崩れ実験で生き埋め事故 科学技術庁 シートピア計画開始 国際海洋研究10カ年計画実施 (IDOE) 世界最古のアミッオーク片麻岩 (40億年) 発見</p>	<p>3. 内閣 宇宙開発に関する基本計画決定</p> <p>6. 17 沖縄返還協定調印</p> <p>7. 3 東亜国内航空機 函館北方で遭難</p> <p>7. 30 零石上空で全日空機 自衛隊機と接触墜落 (零石事故)</p> <p>8. 16 ドル・ショック 東京株式暴落</p> <p>10. 25 中国 国連に加盟</p> <p>12. 16 日本円切上げ 1ドル308円</p> <p>カップヌードル登場</p>
昭和47年 (1972)	<p>2. 15 定例総会並び講演会 会員数 780名</p> <p>5. 15 関西支部総会並びに講演会</p> <p>10. 27 研究発表会</p>	<p>3. 15 山陽新幹線 大阪・岡山間開業</p> <p>7. 1 石油開発公団 石油開発技術センター設置</p> <p>7. 2 西日本豪雨 天草郡上島で土石流 ～14</p> <p>10. 4 UJNR海洋資源工業調整委員会 (東京)</p> <p>10. 12 学会名誉会員 広田孝一氏逝去</p> <p>10. 13 国際地球内部ダイナミクス研究計画 (GDP) 開始</p>	<p>5. 13 大阪 千日デパートビル火災</p> <p>5. 15 沖縄返還 沖縄県発足</p> <p>6. 11 田中通産相「日本列島改造論」発表</p> <p>7. 24 米 地球資源技術衛星「アーツ」 打ち上げ</p> <p>11. 6 北陸トンネルで急行が火災 (北陸トンネル事故)</p> <p>12. 4 八丈島東方沖地震 (M7.3) 阿賀沖油田・ガス田発見 パンダ・ブーム</p>
昭和48年 (1973)	<p>3. 6 定例総会及び講演会 新会長 小野寺 透 (S48～S52) 新委員長 松野 久也 (S48～S49) 事務局 木野 義人 (S48～S54) 第1回学会論文奨励賞 3編 本官一邦 「山崩れ頻発地での崩壊予知の研究」 星野 寔 小林雄一 吉田 保 「岩石の吸水膨張とその地質工学的意義」 山口久之助 小原常弘 「利尻島の地下水について」 運営組織として事務局 編集委員会 行事委員会を置く 会員数 835名</p> <p>6. 14 北海道支部講演会</p> <p>7. 学会事務の一部委託</p> <p>10. 25 研究発表会</p>	<p>2. アメリカを中心とする環太平洋マッププロジェクト発足</p> <p>7. 25 通産省 資源エネルギー庁発足</p> <p>9. 29 国立極地研究所設立</p> <p>10. 1 地熱エネルギー開発国際協力計画会議 ～15 (カルフォルニア)</p> <p>11. 14 関門橋完成</p>	<p>1. 27 パリでベトナム和平条約</p> <p>2. 1 浅間山爆発</p> <p>2. 24 足尾銅山閉山</p> <p>4. 12 小笠原西之島 海底噴火活動</p> <p>5. 宇宙開発事業団筑波宇宙センター開所式</p> <p>8. 8 金大中誘拐事件</p> <p>10. 1 筑波大学設置 S49.3開講</p> <p>10. 6 第4次中東戦争</p> <p>10. 17 OPECの6カ国石油大幅値上げ (第1次オイルショック)</p> <p>10. 23 江崎玲於奈にノーベル物理学賞</p> <p>11. 29 熊本市大洋デパート火災 死者103名</p> <p>磐城沖ガス田発見</p> <p>列島改造ブーム</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和49年 (1974)	<p>4. 20 定例総会及び講演会 企画 国際の2委員会の新設 (計4委員会)</p> <p>4. 国際応用地質学会 (IAEG) に加入</p> <p>8. 8 国際応用地質学会 第2回国際会議が ブラジル (サンパウロ) で開催 日本より9名出席</p> <p>11. 1 研究発表会</p>	<p>2. 11 世界地質図委員会 南・東アジア部分 ～16 第1回会議 (カルカッタ)</p> <p>3. 15 国立公害研究所設立</p> <p>3. 地質調査船「白嶺丸」就航</p> <p>4. 11 工技院サンシャイン計画推進本部発足</p> <p>6. 26 総理府に国土庁設置</p> <p>7. 火山噴火予知連絡会設置</p> <p>8. 第1回環太平洋エネルギー鉱物資源 会議 (ホノルル)</p> <p>9. 台風により狛江市で多摩川堤防決壊</p> <p>11. 地震予知研究推進連絡会設置</p>	<p>3. 名古屋新幹線公害訴訟</p> <p>3. 1 鳥海山 153年ぶりに噴火</p> <p>3. 12 小野田元少尉ルバン島より帰国</p> <p>5. 9 伊豆半島沖地震 (M6. 8)</p> <p>5. インド 地下核実験発表</p> <p>6. 電源3法公布</p> <p>9. 1 原子力船「むつ」放射能線もれ事故</p> <p>10. 3 ペルーで大地震 死傷者2000名以上</p> <p>10. 8 佐藤栄作前首相 ノーベル平和賞</p> <p>12. 三菱石油水島製油所で重油硫出事故 (3万7300kl)</p>
昭和50年 (1975)	<p>4. 9 北海道支部臨時総会並び講演会</p> <p>6. 20 定例総会及び講演会 委員長制を評議員会制度に改編 会長1名 副会長2名 庶務 編集 行事 企画 国際 財政の6委員会を設置 第2回論文奨励賞 2編 三浦 溝 「深成岩の風化に関する研究」 吉中龍之進 吉田政美「花崗岩分離面のせん断強度特性」</p> <p>10. 22 関西支部見学会「淡路島の地質構造と 応用地質学的諸問題」</p> <p>11. 29 研究発表会</p>	<p>3. 10 山陽新幹線 岡山一博多間開通 東京一博多間で6時間を切る</p> <p>5. 16 IUGSの第1回太平洋地域新第三系 ～21 国際会議 (東京)</p> <p>8. 6 東北地方に豪雨 青森県岩木町で ～29 鉄砲水</p> <p>8. 18 第13回太平洋学術会議 ～29 (バンクーバー) 日独科学技術協力海洋科学技術パネル 日仏科学技術協力海洋開発専門部会発足</p>	<p>1. 6 32万トン級タンカー「祥和丸」 マラッカ海峡で座礁</p> <p>4. 30 サイゴン陥落</p> <p>5. 7 エリザベス英王女夫妻来日</p> <p>6. 8 金星9・10号 金星表面の撮影に成功</p> <p>7. 16 江戸川区の埋め立て地より六価クロム検出</p> <p>7. 19～S51. 7. 8 沖縄海洋博覧会開会</p> <p>11. 3 英 北海油田生産開始</p> <p>シートピア計画100m海中実験 プッシュボタン式公衆電話登場</p>
昭和51年 (1976)	<p>5. 19 関西支部総会及び講演会</p> <p>6. 26 定例総会及び講演会 会長 小野寺 透 初代副会長 池田和彦 黒田秀隆 評議員 39名 監査委員 2名 理事 15名 地方支部 北海道 関西 会員数 1011名 (8. 31現在)</p> <p>11. 6 関西支部見学会「湖南・宇治周辺の 地質特性と応用地質学的諸問題」</p> <p>11. 13 研究発表会</p>	<p>5. 17 第1回太平洋地域新第三系国際会議 ～21 (東京)</p> <p>8. 16 第25回万国地質学会議 (シドニー) ～25</p> <p>9. 14 台風17号により岐阜県安八町で長良川堤防 決壊</p> <p>10. 29 内閣に地震予知推進本部設置</p> <p>12. 24 海洋開発審議会 「わが国海洋開発推進の基本構想および 基本的方策について」答申</p>	<p>2. ロッキード事件発覚</p> <p>2～7 風疹大流行</p> <p>7. 27 ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕</p> <p>10. 29 酒田市で大火 焼失1200戸</p> <p>宅急便登場</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和52年 (1977)	<p>3. 25 北海道支部総会並びに講演会 5. 28 S52年定例総会 会計年度を4月～3月に変更 (従来1月～12月) 11. 12 研究発表会 11. 19 関西支部見学会「兵庫県播磨地域の 地質特性と山地災害」</p>	<p>2. 14 通産省 総合エネルギー対策推進本部設置 4. 高速増殖炉「常陽」が臨界 7. 国鉄 世界初のリニア・モーターカーの 走行テスト成功 8. 19 第7回環太平洋深成作用プ区プロジェクト ～26 (C P P P) 研究集会 (名古屋, 富山) 11. 2 国立科学博物館創立100年記念講演会 12. 火山噴火予知研究シンポジウム (東京)</p>	<p>1. 4 品川駅付近の電話ボックスに毒入り コーラ 2名死亡 1～2 全国的寒波 日本海側は豪雪 5. 2 12カイリ領海法 200カイリ漁業水域法公布 7. 14 国産初の静止気象衛星「ひまわり」 ケネディ宇宙センターから打ち上げ 8. 7～12 有珠山噴火 9. 3 巨人軍王選手 通算756号 ホームラン世界記録樹立 11. 気象庁静止気象衛星「ひまわり」の運用開始 11. 4 閣議 第3次全国総合開発計画決定 初任給10万円時代到来</p>
昭和53年 (1978)	<p>5. 27 総会及び講演会 会 長 倉持文雄 (S53～S56) 副会長 芥川真知 (S53～S56) 第3回論文奨励賞 2編 小島圭二 登坂博行 「写真地質解析のための水系パターンの定量化と多変量判別」 宮島圭司 「大鳴門橋の地盤調査」 会員数 1183名 5. 12 北海道支部講演会 11. 25 関西支部見学会 「近畿西部の中央構造線の地質特性と 応用地質学的諸問題」</p>	<p>4. 工技院 省エネルギー技術開発 「ムーンライト計画」実施 4. 活動火山対策特別措置法施行 5. 9 第1回南極地質コロキウム 6. 27 1回測地学審議会噴火予知委員会 6. 27 石油開発公団 石油公団と改称 7. 5 農林省 農林水産省と改称 8. 7 地震予知連で特定観測地域の見直し 10. 10 本四連絡橋 児島一坂ルート正式着工 学術会議 (Recent Progress of Natural Science in Japan) Vol.3 (地質学鉱物学関係) 岩波講座「地球科学」全16巻刊行開始</p>	<p>1. 14 伊豆大島近海地震 (M7.0) ～15 5. 20 新東京国際空港 (成田) 開港 6. 1 福岡市で異常湧水 時間給水 6. 12 宮城県沖地震 (M7.4) 死者27人 6. 15 大規模地震対策特別措置法公布 (S53. 12. 14施行) 7. 国鉄 リニアモーターカー試験車 時速337kmの世界新記録達成 8. 12 日中平和友好条約調印 12. 14 大規模地震対策特別措置法施工 永大産業 VAN 筑摩書房等の大型倒産 が相次ぐ</p>
昭和54年 (1979)	<p>1. 1 事務局独立 西早稲田2丁目に移転 3. 16 北海道支部総会及び講演会 4. 1 九州支部設立 4. 21 関西支部総会及び講演会 5. 19 総会及び講演会 英文学会名改称 JAPAN SOCIETY OF ENGINEERING GEOLOGY 会員数 1210名 5. 25 北海道支部研究発表会 10. 19 研究発表会及び20周年記念行事 ～20 (シンポジウム) 10. 27 関西支部見学会「西神戸地域における 応用地質学的諸問題」 10. 27 九州支部総会及び講演会・見学会 (福岡市)</p>	<p>1. 8 代替エネルギー国際会議 ～13 8. 20 第14回太平洋学術会議 ～9.1 (ハバロフスク) 11. 1 地質調査所 筑波研究学園都市へ移転 11. 1 東京地学協会創立100周年記念講演 ～2 11. 15 物理探鉱技術協会 物理探査学会に名称変更 洋上石油備蓄基地 現地調査始まる</p>	<p>1. 1 米中国交正常化 1. 13 国公立大で初の共通一次試験実施 1. イラン革命による第2次石油危機 3. 28 米スリーマイル島の原発事故 6. 29 第5回先進国首脳会議 (東京サミット) 7. 11 日本坂トンネル事故 死者 7人 10. 28 木曾御岳山 有史以来初噴火 プロ野球ドラフトの「空白の一日」 江川 (神) 小林 (巨) のトレード</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和55年 (1980)	<p>3. 北海道支部「地質調査法の問題点 その1 ボーリング調査の問題点」発行</p> <p>5.23 北海道支部研究発表会</p> <p>5.24 関西支部総会及び講演会</p> <p>5.31 定例総会及び講演会</p> <p>副会長 池田俊雄 山本栄一 (S55,56)</p> <p>各委員長改選 会員数 1367名 (S54年度末)</p> <p>第4回論文奨励賞 3編</p> <p>緒方正彦 「硬質岩盤における節理分布の数量モデル 化及びその概要に関する考察」</p> <p>糟谷憲司 「岩石の物理量の相互関係及び物理量による 岩石の工学的分類に関する試案」</p> <p>他 浅野勝博 近藤達敏 若佐秀雄 「トンネル掘削に伴う内空変位の予測」</p> <p>6.21 九州支部総会・講演会</p> <p>10.24~25 シンポジウム・研究発表会</p> <p>11.14~15 九州支部講演会・見学会 (大分県)</p> <p>11.15 関西支部見学会「奈良~京都地域の開発と 応用地質学的諸問題」</p>	<p>5.19 セントヘレンズ火山大爆発</p> <p>7.7 第26回万国地質会議 (パリ) ~17</p> <p>8.23 第24回国際地理学会議 (東京) ~9.5</p> <p>8. 科学技術会議「ライフサイエンス推進に関する意見」提言</p> <p>10.1 新エネルギー総合開発機構発足</p> <p>石油公団による南極地域石油 基礎地質調査開始 白嶺丸使用</p> <p>日韓大陸棚石油試掘開始</p>	<p>3. 波力発電装置「海明」海上実験成功</p> <p>4.25 政府モスクワオリンピック不参加決定</p> <p>6.22 衆参両院同時選挙</p> <p>8.14 富士山で大落石事故</p> <p>8.16 国鉄静岡駅前地下街でガス漏れ 大爆発 死者14人</p> <p>11. 動燃 ブルトニウム燃料の国産化成功</p> <p>ルービックキューブ大流行</p> <p>スポーツドリンク隆盛</p>
昭和56年 (1981)	<p>3.27 北海道支部総会・講演会 「地質調査法の問題点 その2 ボーリング 孔内検層調査の問題点」発行</p> <p>3.30 「建設工事における断層」特別号発行 (第1号)</p> <p>5.16 九州支部総会及び講演会</p> <p>5.22 北海道支部研究発表会</p> <p>5.23 定例総会及び講演会 会員数 1515名 (S55年度末)</p> <p>5.23 関西支部総会及び講演会</p> <p>6.3 北海道支部青函トンネル等の見学会 ~5</p> <p>10.25 九州支部講演会及び見学会 (長崎県) ~26</p> <p>11.6 シンポジウム・研究発表会 ~7</p> <p>11.8 関西支部見学会「六甲山地の地質構造と 応用地質学的諸問題」</p>	<p>1.22 地震予知総合研究振興会発足</p> <p>3.15 島弧変動シンポジウム (千葉県公害研) ~16</p> <p>4. 宇宙科学研究所発足</p> <p>7.22 科学技術会議「防災に関する研究開発 基本計画について」を答申</p> <p>8.28 国際火山学地球内部化学会 (IAVCEI) ~9.8 弧状列島の火山活動シンポジウム (東京 箱根)</p> <p>10.3 潜水調査船「しんかい2000」熊野灘で 2800mを記録</p>	<p>3.16 臨時行政調査会発足</p> <p>4.18 敦賀原発で高放射性廃棄物漏れ</p> <p>6.6 国家公務員の定年制決まる</p> <p>6. 仁尾太陽熱試験発電所 (電源開発) タワー集光方式で 1000kW発電</p> <p>6. 通産省 テクノポリス候補地 16地区を発表</p> <p>8.26 米 ボイジャー2号 土星に接近</p> <p>10.6 北炭夕張新鉱でガス突出事故 死者・不明 93人</p> <p>10.19 福井謙一にノーベル化学賞</p> <p>日本にマイコンブーム起こる</p> <p>国鉄「フルムーン」発売</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和57年 (1982)	<p>3. 26 北海道支部総会・講演会</p> <p>5. 関西支部設立10周年記念論文集 「応用地質学の最近の研究」発行</p> <p>5. 22 定例総会 会 長 芥川真知 (S57～S60) 副会長 篠木嶺二 (S57～S60) 委員長改選 第5回論文奨励賞 2編 猪間英俊 「関越トンネルにおける山はね」 渡辺邦夫 古田島信義 「割れ目系岩盤における透水係数算定の 基礎的考察」 会員数 1700名 (S56年度末)</p> <p>5. 23 関西支部総会及び研究発表会</p> <p>5. 28 北海道支部研究発表会</p> <p>5. 29 九州支部総会及び講演会</p> <p>6. 18 北海道支部見学会</p> <p>10. 8～9 シンポジウム及び講演会</p> <p>11. 6 関西支部見学会「亀岡・篠山地域の 水理地質と応用地質学的諸問題」</p> <p>11. 13～14 九州支部講演会・見学会 (熊本)</p> <p>12. 4 九州支部研究発表会</p>	<p>6. 23 東北新幹線開業 (大宮～盛岡間)</p> <p>7. 23 九州北西部 山口県に豪雨 長崎市で死者・不明 299人 (長崎豪雨)</p> <p>11. 15 上越新幹線開業 (大宮～新潟間)</p> <p>5世代コンピュータの官民合同による 開発事業がスタート</p>	<p>2. 8 通信衛星「さくら2号」打ち上げ</p> <p>2. 8 ホテルニュージャパン火災</p> <p>2. 9 日航機羽田沖墜落事故 24人死亡</p> <p>3. 21 北海道浦河町で震度6 重軽傷 147人</p> <p>5. 24 フォークランド紛争</p> <p>5. 23 日米通商摩擦 市場解放策第2弾決定</p> <p>6. 国鉄 有人型リニアカーで時速 300kmの浮上走行</p> <p>6. 22 IBMスパイ事件 (おとり捜査)</p> <p>8. 2 台風10号による被害続出 死者・不明者 81人</p> <p>10. 9 北炭夕張炭坑閉山</p> <p>11. 4 1ドル278円65銭 以降円高</p> <p>11. 27 中曽根内閣誕生</p> <p>二次半導体戦争 エアロビクスダンス流行</p>
昭和58年 (1983)	<p>4. 15 支部総会及び特別講演会</p> <p>5. 21 定例総会及びシンポジウム 会員数 1757名 (S57年度末)</p> <p>6. 2 北海道支部研究発表会及び見学会 ～3</p> <p>6. 4 九州支部総会及び講演会</p> <p>8. 12 関西支部講演会 ロンドン大学 ハッチンソン教授「地すべり」</p> <p>9. 17 九州支部研究発表会</p> <p>10. 28 研究発表会 ～29</p> <p>11. 11 九州支部講演会及び見学会 ～12</p> <p>11. 19 関西支部見学会「湖西地域の応用地質学的 諸問題」</p> <p>12. 17 関西支部災害シンポジウムと研究発表会 ～18</p>	<p>1. 27 青函トンネルの先進導坑 着工以来 19年ぶりに貫通</p> <p>5. 26 日本海中部地震 (M7. 7) 地盤の液状化 津波 死者・行方不明 104人</p> <p>7. 22 山陰地方に集中豪雨 死者 119人</p> <p>11. 28 日本学術会議法改正 会員選出を公選 制から推薦制へ</p>	<p>1. 23 ソ連の原子炉積載軍事衛星 コスモス落下 被害なし</p> <p>4. 9 日本の総人口 1億1869万人 (総理府発表)</p> <p>9. 1 大韓航空機ソ連領空に入り ミサイルにて撃墜される</p> <p>10. 3 三宅島大噴火 溶岩流により 阿古地区の400戸焼失</p> <p>10. 12 ロッキード裁判 田中元首相に有罪の 判決</p> <p>写真週刊誌178万部突破</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和59年 (1984)	<p>3. 19 北海道支部総会及び特別講演会</p> <p>5. 19 九州支部総会及び講演会</p> <p>5. 31 定例総会及びシンポジウム 委員長改選 第6回論文奨励賞 2編 蝦名克彦 矢部哲雄 服部修一 「青函トンネル建設工事における先進 ボーリングによる地質の先方予知と実績」 金折祐司 宮腰勝義 角田隆彦 猪原芳樹 佐竹義典 「断層粘土中の石英粒子の表面構造による 断層活動性評価の試み」 会員数 1790名 (S58年度末)</p> <p>6. 1 北海道支部研究発表会</p> <p>6. 12 九州支部5周年記念 ～17 「ハワイ地熱・火山セミナー」 (ハワイ)</p> <p>6. 22 北海道支部見学会</p> <p>6. 30 関西支部総会及び研究発表会</p> <p>8. 特別号「岩盤分類」発刊</p> <p>8. 22 事務局 新宿区高田馬場2-1-9 松留ビルへ移転</p> <p>10. 19～20 研究発表会</p> <p>11. 2 九州支部見学会 (八代一人吉)</p> <p>11. 17 関西支部見学会「奈良県五条～十津川」</p>	<p>6. 29 海上保安庁が相模トラフは全長300km以上の 大海底谷と発表</p> <p>9. 14 長野県西部地震 (M6. 8) 死者・行方不明 29人 (長野県王滝村)</p>	<p>1. 19 アフリカで飢餓が深刻化</p> <p>1. 23 放送衛星「ゆり2号」打ち上げ</p> <p>6. 30 サラ金大手倒産が続く</p> <p>10. 31 ガンジー首相暗殺</p> <p>11. 1 新札 (1万円 5千円 千円) 発行</p> <p>11. 16 電々公社のケーブル火災により 世田ヶ谷で9万回線が不通となる</p> <p>「エリマキトカゲ」ブーム グリコ 森永事件</p>
昭和60年 (1985)	<p>3. 13 北海道支部総会及び講演会</p> <p>5. 18 九州支部総会及び講演会</p> <p>5. 31 総会及びシンポジウム 会員数 1763名 (S59年度末)</p> <p>6. 1 関西支部総会・講演会</p> <p>6. 6～8 九州支部見学会 (Expo' 85)</p> <p>6. 14 北海道支部見学会 (地質学会道支部と共催)</p> <p>7. 1 北海道支部創立20周年記念式典・特別講演</p> <p>8. 3 九州支部講演会「岩盤分類」</p> <p>10. 19 関西支部地下水に関する技術講習会</p> <p>10. 25 研究発表会 ～26</p> <p>11. 18 九州支部研究発表会</p> <p>11. 30 関西支部見学会「西神・北神地域の 開発に関する応用地質学的諸問題」</p>	<p>3. 10 青函トンネル 本坑貫通 世界一の海底トンネル 全 長 53. 85km 海底部分 23. 3km 最大水深 140m</p> <p>3. 16 科学万博「つくば85」開幕</p> <p>6. 8 本四橋の大鳴門橋開通 (着工S51. 7) 全 長 1729m 中央径間 876m 東洋一の釣り橋</p> <p>7. 26 長野市地附山で大規模地すべりが発生 死者 26人</p>	<p>4. 1 NTT 日本たばこ産業民営化</p> <p>8. 7 日本人として初めて宇宙空間を目指す 科学者3人が選ばれる</p> <p>8. 12 日航123便群馬県御巢鷹山中に墜落 520人死亡</p> <p>8. 15 中曽根首相 初の靖国公式参拝</p> <p>9. 19 メキシコ南西部で大地震 (M8. 1) 死者8千人</p> <p>11. 2 阪神タイガース優勝フィーバー</p> <p>11. 13 ネバドデルルイス火山が噴火 死者・行方不明 25, 000人</p> <p>米国でエイズ 広がる</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
昭和61年 (1986)	5. 9 九州支部総会及び講演会 5. 北海道支部研究発表会 5.30 会 長 池田俊雄 (S61～) 副会長 井上康夫 (S61～) 第7回論文奨励賞 千木良雅弘 「結晶片岩の岩盤クリープ (その1, 2)」 中山範一 成田一男 北村孝海 向山拡美 「未固結地山中のトンネル周辺における 地下水挙動 (その1, 2)」 会員数 1780名 (S60年度末) 6.14 北海道支部見学会 6.20 九州支部見学会 (シラストンネル) 6.21 関西支部総会及び講演会 8.22 九州支部講習会「不連続岩盤の定量的 記載法」 10.24～25 研究発表会 11.14 九州支部研究発表会 11.15 関西支部見学会「北但地域の地質特性と ～16 応用地質学的諸問題」発刊	5.20 ハイテク汚染に警鐘 環境白書 11.21 伊豆大島三原山大噴火 島民約1万人避難	1.28 米国スペースシャトル「チャレンジャー」 爆発 乗員7人死亡 3.14 ハロー彗星接近 欧州の探査機 ジョット核を撮影 3.31 原油価格急落 1バレル10ドルを割る 4.26 ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故 放射能汚染 9. 6 社会党初の女性党首 土井委員長 11. 1 超低金利時代 (公定歩合年3.0%に) 12.13 円高 貿易摩擦により 製造業の空洞化が 進む
昭和62年 (1987)	2.28 北海道支部地質講習会 3.13 北海道支部総会 5. 8 九州支部総会及び講演会 5.22 北海道支部研究発表会 5.29 定例総会及びシンポジウム 6.12～13 北海道支部見学会 6.19 九州支部見学会 (福岡県) 6.20 関西支部総会及び講演会 8.21 九州支部講習会「土質断面図の読み方作り方」 9.18 九州支部10周年記念シンポジウム 「九州地方における応用地質学の役割」 10.24～11.1 記念海外見学会 (東南アジア) 10.28 関西支部技術講習会「地盤調査の現状と 問題点」 10.30～31 研究発表会 11. 7 関西支部見学会「兵庫県社町平木鉦山・ 大川瀬ダムおよびその周辺の有馬層群」 12. 4 九州支部10周年記念座談会	8. 本四坂出児島ルート 橋桁が連結される 9. 高速道路網 青森～熊本まで連なる	4. 1 国鉄民営化 JRグループ6社に分割 9. 新電々グループの営業が始まる 10. 円高進行 株価暴落 11. 竹下内閣誕生 11.28 南アフリカ航空機墜落 (邦人47名) 11.29 大韓航空機消息絶つ この後世界各地で航空機事故続発 12. 円高進行 1ドル=128円台に 首都圏で地価が高騰する 日米貿易摩擦深刻化

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>昭和63年 (1988)</p>	<p>3.11 北海道支部総会・特別講演 5.21 九州支部総会・講習会 支部創立10周年記念式典 5.13 定例総会・30周年記念行事・研究発表会 ～5.14 会 長 井上康夫 (S63,S64) 副会長 中島秀雄 (S63,S64) 評議委員40名、理事20名、監査委員 2名 名誉会員に小野寺 透、山本荘毅、黒田秀隆の3氏推薦 (名誉会員 5名) 会員数 1798人 (S62年度末) 賛助会員 116社 国際会員125人 第8回論文奨励賞 2編 北川修三、川上義輝 「凍上試験による地山の凍上性の判定」 低引洋隆、小橋澄治、羽原俊行 「六甲山地における土砂災害について」 ◎ 30周年記念行事 記念講演 小野寺 透 (名誉会員) 「この地殻に生きるー応用地質学の原点ー」 功労者表彰 二見満枝(事務局)、松本 喬(印刷) 祝賀会 来賓者祝辞 大平成人 (社)土質工学会 矢島壮一 (社)全国地質調査業協会連合会 出席者 116名 ◎ 研究発表会 発表論文38編、参加者 287名 6. 4 関西支部総会・講演会 9.19 国際応用地質学会 (IAEG) 国際シンポジウム ～23 於 アテネ、本学会より9名参加 9.27 見学会 千葉県高滝ダム 参加者 49名 11. 4 「防災地質に関する」講習会 参加者 93名 事務局人事異動 新任 今井:事務局長、芳賀:編集、金森:庶務 退任 二見:事務局員</p>	<p>2.10 元学会副会長 山本栄一氏逝去 3.13 世界最長の青函トンネル開業 (53.85km) 80年続いた青函連絡船終航式 4.10 世界最長の道路・鉄道併用の瀬戸大橋が開通 (児島・坂出間、海峡部9368m) 工期9年半、工費1兆1300億円 5. 世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」着手 橋長3910m、中央支間長1990m 6. 藤ノ木古墳でファイバースコープにより石棺内の撮影 に成功 7. 9 梅雨前線の影響で九州から東北にかけ、広い範囲で大雨 ～21 10. 物理探査学会40周年 12. 7 アルメニア地震 (M6.8) ソ連アルメニア共和国で地震 犠牲者は25,000人、アルメニアはアラビア・ユーラシア 両プレートの境界に位置している 12.19 北海道・十勝岳26年ぶりに噴火 「自然災害科学事典」築地書館 「宇宙から見た地球」丸善</p>	<p>1.21 国土庁 全国の最高路線価格を公表、 県庁所在地の平均上昇率 23.8%、都内平均上昇率79.2%、史上最高 2.13 カルガリー冬季オリンピック開幕 ～28 橋本聖子5種目全てに入賞 3.18 東京ドーム「ビッグエッグ」完成、開場記念オープン戦 4. 1 「マル優制度」廃止、預貯金利子に20%課税 4.14 アフガニスタンで和平協定成立 5.25 日米建設交渉合意、7公共事業で外国企業参入へ 6. スパイクタイヤの製造中止を決定、粉塵公害防止のため 6.18 リクルート事件の発端、川崎事件発覚 8.20 イラン・イラク戦争8年ぶりに停戦発効 9.17 第24回ソウル・オリンピック開幕 160ヶ国・地域が参加 1.17 円高 1ドル121円52銭 (過去最高) 11.26 「ふるさと創生」政策決定、全市町村に一律1億円を交付 ドライブールが流行 プロ野球の「南海ホークス」と「阪急ブレーブス」が 身売り「ダイエーホークス」、「オリックスブレーブス」 となる 「となりのトトロ」、「ラストエンペラー」等が人気</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>昭和64年 ↓ 平成元年 (1989)</p>	<p>3.16 北海道支部総会・特別講演 4. 学会会計システムの改善を実施(複式簿記へ) 5.20 九州支部総会・講演会 5.26 定例総会・シンポジウム 会則の一部変更 会員数 1799名(S63年度末) 賛助会員 119社 ◎シンポジウム「活断層の調査と解釈」 講演 4編、参加者 125名 6.30 関西支部総会・講演会 9.14 見学会 東名高速(松田～御殿場間)改築現場 参加者 48名 10.13 H1研究発表会(於 東京) ～14 特別講演「ソ連アルメニア地震の災害」川島一彦 発表論文 38編、参加者 166名 発表会場にて学会誌に関するアンケートを実施 <結果> ・口絵 継続希望:42、無くてよい 0、どちらでも 3 ・シズ解説 毎号読む19、時々読む27、読まない 0 ・Q&A 毎号読む18、時々読む24、読まない 2 ・文献紹介① 毎号見る23、時々見る18、見ない 1 ・ // ② もっと積極的に紹介20、現状でよい 8</p>	<p>3. 2 佐賀県吉野ヶ里遺跡で、銅剣・ガラス製管玉など発掘 弥生時代最大の環濠集落・墳丘墓と推定 6.30 伊豆半島・伊東沖で群発地震発生7月まで続く 家屋損壊・道路崩壊が生じる (7.13 には伊東沖で海底噴火 一部住民避難、漁港閉鎖、7.15 海底火口を確認) 7. 9 第28回万国地質学会(IGC)ワシントンで開催 ～7.19 7.16 福井県越前海岸(国道305)で岩盤崩落、ロックシェッドを 直撃・破壊 マイクロバスの15人全員死亡 9.12 第26回自然災害科学総合シンポジウム(於 北海道) 9. 国際地形学会(I.A.G)創設 9. 横浜ベイブリッジ開通 全長860mの大斜張橋 10.17 ロマプリータ地震(M7.1) 米カリフォルニアのサンタ クルス山地で発生、震源より90km離れたサンフランシス コでは、建物の倒壊や二層式高速道路が崩壊 死者63人 「東北地方土木地質図解説書」東北地方土木地質図編纂 委員会編・(財)国土開発技術研究センター 「岩の調査と試験」(社)土質工学会 「断層調査法」岩松 暉、横田修一郎 著 各省庁より地下空間利用に関する構想が打ち出される 建設コンサルタント中長期ビジョン「ATI構想」発表</p>	<p>1. 7 天皇崩御、皇太子明仁 新天皇に即位 年号を「平成」に改元(1.8 施行) 1.14 国の行政機関 隔週土曜閉庁開始(第2・4土曜) 2. 4 金融機関、土曜全休開始 2.24 昭和天皇の大喪の礼 4. 1 消費税スタート(3%) 6. 2 宇野内閣成立(わずか2ヶ月余の短命内閣) 6. 4 天安門事件 (民主化を要求して集まった群衆を軍隊で制圧) 6.24 美空ひばり死去(7.4 女性初の国民栄誉賞) 7.23 参議院選挙で与野党逆転 8. 9 海部内閣成立 8.25 礼宮さま、紀子さま婚約発表 9. 大相撲横綱千代の富士 965勝の史上最多記録を達成 国民栄誉賞 9.27 ソニー 米映画会社コロビアの買収を発表(34億ドル) 10. 幕張メッセ完成 11. 9 ベルリンの壁崩壊 11.15 横浜 坂本弁護士一家失踪事件 12. 東証株価 3万8915円の史上最高値記録 紀子さんブーム、ペレストロイカが流行語となる</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成2年 (1990)</p>	<p>3.16 北海道支部総会・特別講演 5.17 定例総会・シンポジウム 会長 岡本隆一 (H2~H5) 副会長 福竹養造 (H2~H5) 評議委員40名、理事20名、監査委員 2名 会費改定 (S60より5年ぶり) 6000円 会員数 1891人 (H1年度末) 賛助会員 143社 国際会員 144人 名誉会員 5名 第9回論文奨励賞 2編 吉田英一、大澤英明、柳澤孝一、山川 稔 「深部花崗岩中の割れ目解析ー岐阜県東濃地域に分布する 花崗岩を例にして」 小島圭二、神尾重雄、石橋弘道、内山成和、斉藤秀樹、島 祐雅 「ジオトモグラフィーによる岩盤の画像化 (その1) ー岩盤の物性分布の画像化ー」 「 〃 (その2)岩盤間の地下水の流れの画像化」 ◎シンポジウム テーマ「高温岩体地熱発電の現状と展望」 講演 6編、参加者 65名 5.19 九州支部総会・講演会 6.21 H2研究発表会 北海道支部共催 (於 札幌) ~22 特別講演「火山と火山災害」勝井義雄 発表論文50編、参加者224名 6.23 見学会 定山溪ダム・有珠山砂防施設 6.30 講習会 九州支部共催 (於 福岡) テーマ「防災地質の現状と展望」参加者128名 6.30 関西支部総会・講演会 10.5 見学会 宮ヶ瀬ダム 参加者 50名 第29回万国地質学会 (IGC) 及びIAEG総会 「京都」開催に伴う体制が整うー「IGC-92事務局」を 学会内に開設</p>	<p>1.22 新幹線御徒町トンネル工事で道路陥没事故 6.20 JR東日本 信濃川水力発電再開発工事竣工 JR首都圏の使用電力の80%を供給、出力45万kw 水路トンネルの総延長26.7km 6.20 イラン北西部地震 (M7.7) 死者4~5万人 家屋の倒壊、地すべりによる被害が顕著 7.2 中部九州で集中豪雨 死傷者100名以上、 阿蘇地区大被害、JR豊肥線不通 7.16 フィリピン・ルソン島地震 (M7.8) 死者1600人以上 地すべり、噴砂、液状化などが発生、高層建築の倒壊 100kmにおよぶ地震断層(Digdig断層)現れる、 変位は左横ずれ6.6m、垂直2.0m 8.6 第6回(25周年記念)国際応用地質学会 (IAEG) 国際会議 ~10 於 アムステルダム 本学会も参加 9.13 全国地質調査業協会連合会 第1回技術フォーラムを ~14 東京で開催 9.16 台風19号により沖縄から東北地方まで被害発生 ~20 死傷者170人以上、家屋16500戸、船舶410隻以上 11. ユーロトンネルのサービストンネル貫通 11.17 雲仙普賢岳が200年ぶりに噴火 11.29 第8回岩の力学国内シンポジウム 12.10 ジオトモグラフィ国際シンポジウム 12.11 千葉県南東部で竜巻発生、78人が負傷、1500棟が被害 「東京都総合地盤図(Ⅱ)ー山の手・北多摩地区」 東京都土木技術研究所</p>	<p>1.13 大学入試センター第一回試験実施 2.5 都市・地方銀行間のオンラインサービス提携開始 2.12 ソ連 大統領制導入を決定 (3.15 ゴルバチョフ初代大統領選出) (10.15 同大統領ノーベル平和賞受賞) 2~3. バルト3国 相次いでソ連からの独立を決議 3.8 千葉県、新設ゴルフ場での農薬使用全面禁止 (全国初) 3.23 国土庁、地価高騰全国に波及、 大阪圏の住宅地が前年比56.1%上昇 (過去最高) 3.28 円安 1ドル158円63銭 4.1 三井・太陽神戸銀行合併 4.1 大阪で「国際花と緑の博覧会」開催 (ロープウェイ事故等相次ぐ) 6.10 ペルー大統領選、日系二世「フジモリ氏」当選 6.29 礼宮さま、紀子さまご結婚の儀 7. 首都圏水不足で取水制限へ 8.02 イラク軍クウェートに侵攻・制圧 <湾岸危機> 9. 大阪の真夏日、史上最長の連続67日を記録 10.3 東西ドイツ統一 11.12 天皇 即位の礼 11. 観測史上最も遅い台風28号が紀伊半島に上陸 11. 国会開設百周年で議事堂を初めて一般に開放 11.26 松下電器、米のMCA社買収を発表 (61億ドル) 12.2 秋山豊寛TBS記者、 日本人初の宇宙飛行 (ソユーズ11号・ソ連) 12.21 名目GNP、初の400兆円突破 (土地と株の増加分485兆円におよばず) TVで「ちびまる子ちゃん」ブーム バブル崩壊、3K (きつい、汚い、危険) が流行語となる</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成3年 (1991)</p>	<p>3.22 北海道支部総会・特別講演・特別報告 4. 学会誌「応用地質」本年より年6回(隔月)発行 5. 4 第1回海外応用地質学関連サイト調査団 ～5.13 マルパッセ、バイオント等のダムを視察 団長 岡本隆一会長他21名 5.18 東北支部 設立総会、会員数 154名、計4支部となる 記念講演「開発と自然保護に関連して」北村 信 5.18 九州支部総会・講演会 5.23 定例総会・シンポジウム 会員数 1917人(H2年度末) 賛助会員 147社 国際会員 157人 ◎シンポジウムテーマ「土砂地盤の調査と評価」 特別講演「動く地盤とその対応」池田俊雄 一般講演 6編、参加者 108名 6.29 関西支部総会・講演会 9.26 講習会 東北支部共催(於 仙台) テーマ「防災地質の現状と展望」参加者63名 10.14 I A E G国際シンポジウム 於チュニジア ～16 学会より3名参加 10.22 H3研究発表会(於東京) ～23 特別講演「世界の海峡トンネル」持田 豊 発表論文37編、参加者 142名 10.24 見学会 浦山ダム 参加者 47名 11.29 関西支部創立20周年記念事業 ～30 記念論文集「地球環境と応用地質」発刊 シンポジウム・パネルディスカッション 参加者270名</p>	<p>3.31 奈良俣ダム竣工(水資源開発公団) 堤高158m、堤体積 1,310万m³、ロックフィルダムで日本一のポリウム 4. ユーロトンネル本坑貫通 4. 東京大学 地球物理学科を地球惑星物理学科へ改組 5. ～6. ユーロトンネル本坑(北・南)相次いで貫通 6. 3 雲仙普賢岳で大規模な火砕流発生、死者・行方不明43名 6. 7 第29回万国地質学会(京都開催)を閣議決定 6.12 フィリピン・ピナトゥボ火山今世紀最大級の大噴火 死者 約300人、避難民85000人、噴出総量20億m³以上 火山灰150km四方に降下、火山灰による泥流、二次災害 で米軍クラーク空軍基地使用不可(11.26 基地返還) 6.19 名誉会員・元会長 田中治雄氏逝去 6.20 東北・上越新幹線東京駅乗り入れ開始 8. 計量法が変更 熱量カロリーがジュール、騒音のホーン がデシベルなど国際単位に統一 9.15 雲仙普賢岳北東斜面で最大規模の火砕流発生 多数の民家や小学校が焼失 9.24 台風19号により全国に被害甚大、死傷者1500人以上 ～10.1 家屋17万戸以上、船舶930隻、農作物被害5735億円 10. 2 地下水の上昇で西湖が増水、湖畔のキャンプ場など浸水 10.11 地下水の上昇でJR武蔵野線新小平駅隆起災害 ー相次ぐ台風や長雨により各地で地下水の異常上昇発生ー 12. 関西国際空港の埋め立て工事完成 「新編 日本の活断層ー分布図と資料ー」活断層研究会編 東京大学出版会 「北陸地方土木地質図解説書」北陸地方土木地質図編纂 委員会・国土開発技術研究センター 「軟岩の調査・試験の指針(案)(1991年版)」土木学会</p>	<p>1. 1 東京23区の電話番号が4桁になる 1.17 湾岸戦争勃発 ペルシャ湾岸の多国籍軍、イラク軍に攻撃開始 「砂漠の嵐作戦」と命名 1.24 政府 湾岸戦争支援として 90億ドル(1兆2000億円)追加支出 2. 9 関西電力美浜原発で原子炉が自動停止する事故 2.23 立太子の礼 3. 「常磐新線」の事業主体 (第三セクター)首都圏新都市鉄道(株)発足 3. 9 新宿に新東京都庁完成 高さ241mの日本一の高層ビル 総工費 1600億円 3.14 広島市で鋼製53トンの橋桁が落下、14人犠牲 4.16 ゴルバチョフ大統領、ソ連元首として初来日 4.22 ノンバンク静信リース倒産、 バブル経済崩壊初のノンバンクのケース 6. 5 海上自衛隊 クウェート沖で掃海作業開始 6.12 エリツィン、ロシア共和国初の大統領 6.14 横綱千代の富士 引退<若貴時代> 7. 1 ワルシャワ条約機構解体 7.12 「悪魔の詩」の訳者 五十嵐筑波大助教授刺殺 8.19 ソ連保守派クーデター ゴルバチョフ大統領を軟禁 8.21 クーデター失敗、 8.24 ゴルバチョフ 党中央委に解体勧告、 書記長を辞任<ソ連共産党の解体> 9.24 経済企画庁「いざなぎ景気(S40.11～S45.7を超えた)」と 発表 11. 5 宮沢内閣成立 4大証券の損失補てん発覚、大相撲で若貴ブーム</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成4年 (1992)</p>	<p>1.10 学会事務局 新宿区戸塚町 1-101 南部ビルへ移転 4.17 北海道支部総会・特別講演・特別報告 5.15 九州支部総会・講演会 5.19 東北支部総会・特別講演会 5.22 定例総会・シンポジウム 会長 岡本隆一 (H2~H5) 副会長 福竹養造 (H2~H5) 評議委員50名、理事27名、監査委員 2名 会員数 1965人 (H3年度末) 賛助会員 149社 IAEG会員 165人 名誉会員 4名、参与 8名 第10回論文奨励賞 1編 蒔田敏昭、福竹養造、星野延夫、井口敬次、新見 健 「深部地下空洞を対象とした岩盤分類法—石油地下備蓄基地における岩盤分類と総合評価」 ◎シンポジウム テーマ「都市圏における地山・環境条件の調査評価法」 特別講演「カリフォルニアにおける断層系とブロックローテーション」 浜島良吉、一般講演 4編、参加者 82名 6.19 関西支部総会・講演会 9. 1 国際応用地質学会(IAEG)総会 京都で開催(IGCに合わせ) 8.27にIAEG執行委員会、8.28にIAEG評議委員会を開催。 学会ではIGC会場内にブースを設置、記念出版物として 「日本の岩盤分類(和・英)」・「日本のダムの地質(英)」を発刊 10. 2 見学会 塩川ダム 参加者33名 10.11 第2回応用地質学関連サイト調査団 ~24 ゴットランド島、河川関連土木施設・ユーロトンネル等 団長 福竹養造副会長他14名 10.27 H4研究発表会 関西支部共催 (於 大阪) ~28 特別講演「自然人間関係史の再検討」日下雅義 発表論文51編、参加者164名 10.29 見学会 関西新空港と周辺関連施設 12. 4 講習会 関西支部共催 (於 大阪) テーマ「環境と防災」 学会の国際交流を発展させるため「田中国際基金」を設立 学会事務局異動 大窪事務局長</p>	<p>1. 東京湾横断道路 川崎人工島で連壁の掘削開始 6. ブラジル・リオで地球環境サミット開催 参加国は100ヶ国以上 7.01 山形新幹線<つばさ>開業(福島・山形間)在来線の用地 を利用し、ミニ新幹線と呼ばれる 8.24 第29回万国地質会議 (IGC) 京都で開催される ~9. 3 名誉総裁 皇太子殿下 9. 5 環境庁調査 埋立てにより全国の干潟4000haが消滅 9.12 ニカラグア地震 (M7.2) 死者116人以上 8mを越す津波で被害拡大 9. 環状七号線地下河川のシールド発進 (内径12.5m、延長2km、貯留量24万m³) 10.12 エジプト地震 (M5.9) 死者550人以上、カイロ地域で 建物倒壊による被害大 12.12 インドネシア東部地震 (M7.5) 死者・行方不明者 2500人以上、20mを越す津波発生、山間部では地すべり 12. 気圧の単位ミリバールを国際単位のヘクトパスカルに 変更 「ダムの岩盤掘削」土木学会 「10万分の1 日本地質図(第3版)」地質調査所 「日本の活断層図{地図と解説}」活断層研究会 「軟岩評価—調査・設計・施工への適用—」土木学会 「付加体の地質構造—四万十帯の写真アトラス— 東大出版会 —大学の地質学系講座に改組や名称変更が多くなる—</p>	<p>1.26 大相撲 貴花田19歳5ヶ月の史上最年少優勝 1.31 太平洋岸・関東地方に大雪 ~2. 1 2. 8 アルベールビル冬季オリンピック開幕 ~23 3.14 東海道新幹線に「のぞみ」登場、東京・新大阪間2時間半 3.27 国土庁 公示価格が17年ぶりに下落と発表 3.31 米 戦艦ミズーリ退役 4. 千葉市12番目の政令都市に 4.27 ユーゴスラビア クロアチア等4共和国と新ユーゴ連邦に解体 5. 2 国家公務員の週休2日制がスタート 7.16 住宅金融専門会社7社の債務が約13兆9700億円と判明 7.25 パルセロナ・オリンピック開幕 ~8. 9 8.11 東証1部の平均株価が6年4ヶ月ぶりに 1万5000円を割る 8.24 中国と韓国が国交樹立 9.12 国公立小中高校 第2土曜日休校に 9.12 毛利 衛氏スペースシャトルで宇宙飛行 ~20 10. 9 長島 巨人軍監督に復帰 10.30 大蔵省 都市銀行等21行の不良債権12兆3000億円と発表 11. 米大統領にクリントン氏(民主党)当選 カラオケボックス登場 きんさん・ぎんさんブーム “ほめ殺し”が流行語に</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
平成5年 (1993)	<p>4.16 北海道支部総会・特別講演・特別報告 参加者87名</p> <p>5.13 講習会(於 東京) テーマ「日本の岩盤分類」参加者92名</p> <p>5.14 九州支部総会・講演会 参加者216名</p> <p>5.19 東北支部総会・特別講演会 参加者48名</p> <p>5.28 定例総会・シンポジウム 正会員 2040名 (H4年度末)、賛助会員 146社 IAEG会員 170名 名誉会員 4名</p> <p>◎シンポジウム テーマ 「斜面の安定性に関する調査と評価」 特別講演「斜面の安定性に関する調査と評価」小島圭二 一般講演6編、参加者198名</p> <p>6. 7 国際応用地質学会(IAEG)シンポジウム(於 モンペリエ) ～ 9 に出席 ～20 第3回海外応用地質学調査団(フランス～スペイン) ピレネー山脈の地質・ダム他を調査 団長 北村 信(東北大教授)東北支部長他25名</p> <p>6.25 関西支部総会・講演会 参加者92名</p> <p>9. 1 講習会 東北支部共催(於 仙台) テーマ「日本の岩盤分類」参加者111名</p> <p>10.27 H5 研究発表会(於 東京) ～28 特別講演「地球環境問題に必要な視点」大嶋和雄 発表論文45編、参加者 184名</p> <p>11 .11 応用地質学会巡検「南部フォッサマグナ・丹沢山塊」 ～12 団 長 関 陽太郎 参加者21名 見学会 宮ヶ瀬ダム 参加者48名</p>	<p>1.15 平成5年釧路沖地震(M7.8)釧路 震度6、死者2名</p> <p>2. 7 能登半島沖地震(M6.6) 輪島 震度5</p> <p>2. フィリピンのルソン島でマヨン火山が噴火、死者 70名</p> <p>4. 3 日本地質学会100周年記念</p> <p>4.29 雲仙普賢岳で大規模土石流発生</p> <p>6.～7. 伊豆半島東方沖で群発地震活発化</p> <p>7. 横浜ランドマークタワー完成 地上70階、高さ296m、日本一の超高層ビル</p> <p>7.12 平成5年北海道南西沖地震(M7.8) 奥尻島青苗地区の津波被害甚大、死者・行方不明230人</p> <p>8. 6 鹿児島県豪雨災害(鹿児島市竜ヶ水地区土石流災害など 県全域が被災)</p> <p>8. 8 グアム島で大地震(M8.2) 日本各地でも津波観測</p> <p>8.26 レインボーブリッジ・首都高速11号「台場線」開通</p> <p>9. 3 台風13号が九州、四国、中国地方を縦断 ～ 4 死者・不明48人、負傷者210人</p> <p>9.27 羽田空港の新ターミナルビル「ビッグバード」開業</p> <p>9.30 インドで大地震(M6.4) 死者30,000人以上</p> <p>10.29 広島新空港供用開始</p> <p>11.12 環境基本法公布</p> <p>12. 3 東名阪自動車道(名古屋～勝川) 開通</p>	<p>1. 1 EC統合市場が発足 12カ国、3億5000万人</p> <p>1. 3 第2次戦略兵器削減条約(START II) 調印</p> <p>3. 6 金丸 信元自民党副総裁逮捕</p> <p>3.12 北朝鮮が核不拡散条約(NPT) から脱退を表明</p> <p>3.27 中国共産党の江沢民総書記が国家主席に</p> <p>4.23 天皇・皇后初の沖縄訪問</p> <p>5.15 プロサッカーJリーグ開幕</p> <p>6. 9 皇太子と小和田雅子さん結婚式</p> <p>6. 9 第5回ラムサール条約締約国会議が釧路市で開幕 ～16 95カ国と104のNGOが参加 釧路声明を採択</p> <p>6.21～23 新党さきがけや新生党等が相次いで結成</p> <p>7. 7 第19回主要先進国首脳会議が東京で開幕</p> <p>7.18 第40回衆議院議員総選挙、自民党過半数割れ、 55年体制が崩壊</p> <p>8. 5 土井たか子 初の女性衆議院議長に就任</p> <p>8. 9 細川連立内閣発足</p> <p>9.30 冷夏により93年産コメ作況指数80で戦後最悪</p> <p>10.17 ロシア海軍が日本海に放射性廃棄物を投棄</p> <p>11. 1 欧州連合条約(マーストリヒト条約)が発効</p> <p>12.15 ウルグアイ・ラウンドが最終協定案を採択</p> <p>12.16 田中角栄元首相(75歳)が死去</p> <p>戦後日本政治史の上で画期的な年 長期不況で雇用情勢が悪化 ゼネコン汚職、規制緩和、新党ブーム、Jリーグ、もつ鍋</p>

年	学 会 活 動 史	関 連 事 項	一 般 社 会 史
平成6年 (1994)	<p>2. 4 中国四国支部設立、支部会員数 132名、計5支部となる講習会 本部・中国四国支部共催 (於 広島) テーマ 「日本の岩盤分類」 参加者80名</p> <p>4.15 北海道支部総会・特別講演・特別報告 参加者151名</p> <p>5.13 九州支部総会・講演会 参加者209名</p> <p>5.21 東北支部総会・特別講演 参加者92名</p> <p>5.27 定例総会・シンポジウム 会 長 小島圭二、副会長 田川弘義 (H6～) 正会員 2044名 (H1年度末)、賛助会員、149社、 IAEG会員 206名 名誉会員に境田正宜、鈴木恒茂、村上政嗣、百武松児の 4氏推薦 (名誉会員8名) 第11回論文奨励賞 2編 奥田宏明、西野健三、飯酒盃久夫、古田島信義 「グラウチング改良効果に関する現場試験とその考察」 井上大栄、水落幸広、桜田裕之 「リニアメントの断裂系としての特性とその評価」</p> <p>◎ シンポジウム 特別講演「斜面防災に関する最近の技術と話題」中村浩之 一般講演 5編、参加者164名</p> <p>6.11 関西支部総会・講演会 参加者92名</p> <p>7. 1 中国四国支部総会・講演会 参加者90名</p> <p>9. 3 学会事務所 お茶の水SDビルに移転</p> <p>9. 3 国際応用地質学会(IAEG) 第7回国際会議(於 リスボン) ～9 日本より36編の論文参加 参加者 70名</p> <p>9.10 第4回海外応用地質学調査団 (2コース) ～18 ポルトガル～スペイン 参加者35名 ケニア～リフトバレー 参加者17名</p> <p>10.19 H6研究発表会 九州支部共催 (於 福岡) ～21 特別講演「雲仙普賢岳の土石流について」平野宗夫 発表論文42編、参加者 210名 見学会 長崎県島原市雲仙周辺 参加者88名</p> <p>12. 8 応用地質計測に関するシンポジウム (於 東京) テーマ 「応用地質計測の現状と話題」 一般講演 7編、参加者 43名</p> <p>12. スライド集「応用地質をみる-さまざまな地質事象-」作成 (社) 全地連の発行で発刊</p>	<p>1.13 「環境政策大綱」制定</p> <p>1.17 ノースリッジ地震(M6.6) 死者57名 ロサンゼルスで発生した直下型地震</p> <p>3. 伊豆諸島(新島、神津島)で群発地震</p> <p>3.30 東京外環自動車道(大泉～美女木)開通</p> <p>4. 2 関西空港自動車道及び阪神高速道路湾岸線開通</p> <p>4. 8 気象庁が94年度より導入した新システムによる初の津波 注意報が東北地方太平洋沿岸に発令される</p> <p>5. 6 英仏海峡ユーロトンネル開通、 全長50.5km、海底部37.8km 1987年末着工、TBMが大活躍</p> <p>6. 8 ボリビアで深発地震(M8.3)</p> <p>6.29～30 地震予知研究シンポジウム</p> <p>7. 青森市南西部の「三内丸山遺跡」より直径1m以上の 「大型堀立柱建物」跡が発見される。縄文中期には500人 前後が定住したとされ、従来の縄文時代像を変えた</p> <p>8.28 気象予報士第1回試験の実施</p> <p>9. 4 関西国際空港開港 滑走路3,500m、工期7年、 工費1兆5,000億円</p> <p>10. 4 北海道東方沖地震 (M8.1) 釧路で震度6、 根室の津波173cm</p> <p>10.23 米国材料学会第18回国際会議 (於 京都) ～27</p> <p>11. 宮ヶ瀬ダム本体コンクリート打設完了 (建設省) 重力式コンクリートダム、堤高156m、体積200万m³ RCD工法で施工される</p> <p>12. 1 「公共工事の建設費の縮減に関する行動計画」の策定</p> <p>12.16 「環境基本計画」閣議決定</p> <p>12.21 首都高速湾岸線(横浜ベイブリッジ～羽田空港)開通</p> <p>12.28 「三陸はるか沖地震」(M7.5)、八戸 震度6 青森県中心に死傷者287人</p> <p>「岩の力学 -基礎から応用まで-」日本材料学会編 「中部地方土木地質図・同解説書」中部地方土木地質図編纂 委員会編、(財)国土開発技術センター</p>	<p>1. 1 北米自由貿易協定 (NAFTA) 発効</p> <p>1.29 政治改革関連法案が成立</p> <p>2.12 冬季五輪リレハンメル大会開幕</p> <p>3.26 フィギュアスケート世界選手権で佐藤有香が優勝</p> <p>4. 2 対共産圏輸出を規制したココム (COCOM) が解散</p> <p>4.10 NATO ボスニア紛争でセルビア人勢力を空爆</p> <p>4.26 中華航空機が名古屋空港で着陸失敗炎上 264人死亡</p> <p>4.28 羽田内閣 少数与党で発足</p> <p>5. 1 F1ドライバー、アイルトン・セナがレース中に事故死</p> <p>5. 9 ネルソン・マンデラ氏 南アフリカ共和国大統領に就任</p> <p>5.18 巨人の槇原投手が対広島戦で完全試合を達成</p> <p>6.22 PL法成立</p> <p>6.27 松本サリン事件発生</p> <p>6.30 村山内閣発足</p> <p>7. 3 日本初の女性宇宙飛行士 向井千秋さん宇宙へ</p> <p>7.20 長良川河口堰建設差し止め訴訟で岐阜地裁が原告の請求 棄却</p> <p>8. 3 東京で41年ぶりに最高気温更新(39.1度)</p> <p>8. 5 福徳銀行神戸支店で5億4100万円が強奪される</p> <p>8. 7 第10回国際エイズ会議が横浜で開催される</p> <p>9.13 政府がルワンダ難民救済のため、自衛隊派遣を決定</p> <p>9.14 オリックスのイチローがシーズン最多の192安打を放ち、 プロ野球記録を更新</p> <p>9.28 フィンランド沖のバルト海でフェリーが沈没</p> <p>10. 2 第12回アジア競技大会が広島市で開催</p> <p>10.13 大江健三郎ノーベル文学賞受賞</p> <p>10.18 核開発疑惑に関する米朝高官会談開催</p> <p>11. 2 年金改革法成立</p> <p>11. 8 米中間選挙で共和党が上下院で過半数を占める</p> <p>12.10 「新進党」結成</p> <p>各地で水不足 長期不況で雇用情勢が悪化 価格破壊、イチロー、新・新党、就職氷河期</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
平成7年 (1995)	<p>1.26 阪神大震災調査委員会発足</p> <p>2.10 学会誌第35巻第6号に阪神大震災関連投稿論文等を掲載</p> <p>3.13 阪神大震災緊急合同報告会(於 大阪) 「資料集」発刊 日本地質学会、関西地質調査業協会共催</p> <p>4. 学会誌第36号より巻頭言を掲載開始</p> <p>4.21 北海道支部総会・特別講演・特別報告 参加者148名</p> <p>4.22 中部支部設立総会・特別講演、支部会員数 133名 本部及び6支部体制となる 講習会 中部支部共催「日本の岩盤分類」参加者50名</p> <p>5.12 講習会 北海道支部共催「日本の岩盤分類」参加者163名</p> <p>5.12 九州支部総会・講演会、参加者181名</p> <p>5.21 東北支部総会・特別講演、参加者95名</p> <p>5.25 阪神大震災中間報告会 本部・関西支部共催(於 東京) 「地震と活断層分科会」報告 3編 「地盤・地震動と構造物分科会」報告 2編 「地震動と地盤災害分科会」報告 4編 「国土地理院における地震後の調査経緯について」1編 「パネルディスカッション-地震後の地盤調査の実態と今後の課題」 参加360名 阪神大震災中間報告会予稿集「人工改変と地震災害」発刊</p> <p>5.26 定例総会・シンポジウム 正会員2105名(H6年度末), 賛助会員153社, IAEG会員215名 本学会の社団法人に向けての報告、法人化に関して、参与 並びに歴代正副会長からなる顧問会を結成</p> <p>◎ シンポジウム テーマ「トンネル掘削と地下水挙動」 特別講演「トンネル掘削に伴う広域地下水流動変化の追跡」 嶋田 純、一般講演5編、参加者209名</p> <p>6. 9 中国四国支部総会・特別講演、参加者70名</p> <p>6.24 関西支部総会・講演会 参加者112名</p> <p>6.25 第5回海外応用地質学調査団(イギリス～アイスランド) ～7.9 地質、ダム、橋梁その他の調査を実施 団長 岡本隆一前会長他23名</p> <p>6.27 講習会(於 東京) テーマ「日本の岩盤分類」参加者89名</p> <p>9.20 北海道支部創立30周年記念特別講演会・祝賀会 講演5編、参加者112名、「ルジオンテスト」発刊</p> <p>10. 2 国際応用地質学会(IAEG)王思敬副会長講演会(於東京) テーマ「中国における応用地質学分野の動向」参加者30名</p> <p>10. 4～5 H7研究発表会 東北支部共催(於 仙台) 特別講演 「津波研究の現状と防災」首藤伸夫 特別講演 「活断層による地震評価の課題」垣見俊弘 発表論文43編、ワークショップ6編、 ポスターセッション6展、参加者 229名</p>	<p>1. 7 岩手県沖で地震(M6.9) 八戸、盛岡 震度5</p> <p>1.17 AM5:46、阪神・淡路大震災(M7.2)発生、震度7(気象庁判定) 死者6,425人、家屋全壊116,489戸、野島断層による内陸 直下型地震で建築物、高速道路、新幹線等の鉄道にも壊滅 的な被害発生</p> <p>2. 9 コロンビアで地震(M6.3) 死者40人以上</p> <p>2.11 安房トンネル長野県坑口付近で水蒸気爆発</p> <p>3.12 長良川河口堰に関する円卓会議始まる</p> <p>4. 1 新潟県北部で地震(M6.0) 新潟市、笹神村等で震度4</p> <p>4. 8 山陽新幹線震災以来81日ぶりに全線開通(新大阪～姫路)</p> <p>4.13 気象庁 新しい地震情報スタート 震度3以上の地域名を震度とともに発表</p> <p>4.18 駿河湾で地震(M5.1) 静岡、小田原 震度4</p> <p>5.23 北海道空知支庁で地震(M5.6) 北竜 震度5</p> <p>5.23 土木学会「土木構造物の耐震基準等に関する提言」を発表</p> <p>5.25 火山噴火予知連絡会が雲仙・普賢岳の噴火活動がほぼ 停止状態にあるとの見解を示す</p> <p>5.27 サハリン北部で地震(M7.6) 死者1841人</p> <p>5.31 (社)土質工学会が学会名を(社)地盤工学会に変更</p> <p>6. 3 地震防災対策特別措置法案可決</p> <p>7.11 長野・新潟県境に豪雨、JR大糸線長期不通</p> <p>7.19 日本建築学会が「建築及び都市の防災性向上へ向けての 課題(第1次提言)」を発表</p> <p>7.21 「新建築構造体系総合委員会」が発足</p> <p>7.28 建築震災調査委員会が「建築物の被害状況に関する中間 報告」を実施</p> <p>7.30 チリ北部沿岸で地震(M7.3) 死者3名 日本の太平洋沿岸にも津波が来襲</p> <p>9.26～28 アジア太平洋地域建設事業トップフォーラム開催</p> <p>10. 伊豆半島東方沖で群発地震</p> <p>10.12 九重山系硫黄山(大分県)が257年ぶりに噴火</p> <p>10.18 奄美大島近海で地震(M6.7)、喜界島で津波観測 ～19</p> <p>10.21 第10回「大学と科学」公開シンポジウム ～22 都市震災と防災システム-阪神淡路大震災から得た教訓</p> <p>10.25 「阪神・淡路大震災調査特別委員会」(日本学術会議)が第 1次報告を実施</p> <p>11. 9～11 高速道路交通システム世界会議開催(於 横浜)</p> <p>12.15 名誉会員 境田正宣氏 逝去</p> <p>「1993年鹿児島豪雨災害-繰り返される災害-」1993年 鹿児島豪雨災害調査委員会編、(社)土質工学会</p>	<p>1. 1 世界貿易機関(WTO)発足</p> <p>1.30 米国立スミソニアン博物館が5月から開催予定の 原爆展を事実上 中止</p> <p>2.22 ロッキード裁判丸紅ルート最高裁判決で全員有罪が確定</p> <p>3.20 営団地下鉄線車内で猛毒サリン事件発生 死者12人 重軽傷者5,500人</p> <p>3.30 国松孝次・警察庁長官が狙撃され、重傷</p> <p>4. 9 第13回統一地方選挙 青島幸男、横山ノックが知事当選</p> <p>4.14 日銀が公定歩合を年1.0%に引き下げ</p> <p>4.19 東京外為市場 1ドル79.75円の史上最高値</p> <p>5. 7 ジャック・シラク氏がフランス大統領に当選</p> <p>5.15 地方分権推進法が成立</p> <p>5.16 オウム真理教 麻原彰晃を殺人容疑で逮捕</p> <p>5.31 青島都知事 世界都市博中止を決断</p> <p>6. 5 介護休業法が成立</p> <p>6.13 シラク大統領が南太平洋で8回の核実験を行うと発表</p> <p>6.21 羽田発函館行き全日空ジャンボ機がハイジャックされる</p> <p>6.29 ソウルでデパート崩落</p> <p>7.11 米国がベトナムと国交正常化</p> <p>7.23 第17回参議院議員通常選挙</p> <p>7.23 ヘールポップ彗星発見</p> <p>7.31 コスモ信用組合に東京都が業務停止命令</p> <p>8.23 東京の真夏日(30度以上) 32日連続を記録</p> <p>9.22 橋本龍太郎氏が第17代自民党総裁に</p> <p>10.21 沖縄県民総決起大会開催</p> <p>10.28 水俣病被害者・弁護団全国連絡会議が政府・与党の最終 解決案を受け入れ、事実上決着</p> <p>10.30 東京地裁がオウム真理教に解散命令</p> <p>11. 1 新食糧法施行</p> <p>11. 4 イスラエルのラビン首相暗殺される、中東和平に暗雲</p> <p>11.16 韓国の・泰愚・前大統領が収賄容疑で逮捕される</p> <p>11.19 アジア太平洋経済協力会議(APEC)大阪会議開催</p> <p>12. 3 韓国の全斗煥・元大統領が反乱容疑で逮捕される</p> <p>12. 8 宗教法人法改正案が成立</p> <p>12. 8 動燃の高速増殖炉もんじゅの2次冷却系配管から液体 ナトリウムが漏れ、運転中止</p> <p>12.14 ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争和平協定文書調印</p> <p>12.14 オウム真理教に破防法適用を決定</p> <p>阪神大震災、オウム真理教、2年連続の記録的猛暑 がんばろう神戸、マインドコントロール、ウインドウズ95 NOMO(野茂)</p>

年	学 会 活 動 史	関 連 事 項	一 般 社 会 史
<p>平成7年 (1995)</p>	<p>10.12 見学会 東京電力葛野川発電所 参加39名 12.15 阪神・淡路大震災調査委員会報告会 (於 東京) 第1分科会から「地震と活断層」 編 第2分科会から「地盤・地震動と構造物」 編 第3分科会から「地震動と地盤災害」 編 「日本応用地質学会からの提案」小島委員長(会長) 参加者 244名 「兵庫県南部地震－地質・地盤と災害－報告書」を発刊</p>		

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成8年 (1996)</p>	<p>4. 学会誌第37巻第1号において兵庫県南部地震報告会における応用地質学会からの提案を掲載</p> <p>4.12 北海道支部総会・特別講演会・特別報告 参加者165名</p> <p>4.26 東北支部総会・特別講演会 参加者74名</p> <p>5.17 中部支部総会・見学会 参加者32名</p> <p>5.17 九州支部総会・講演会 参加者179名</p> <p>5.24 定例総会・シンポジウム 会長 小島圭二、副会長 田川弘義 正会員 2236名 (H7年度末)、賛助会員 154社、 IAEG会員 218名 名誉会員に芥川眞知、池田俊雄、北村 信、倉持文雄、深田淳夫、藤田和夫、宮崎政三、山内豊聰、山崎達雄の9氏推薦(名誉会員16名) 第12回論文奨励賞 2編 山口嘉一、田原則雄、松本徳久 「ダム基礎地盤の浸透破壊抵抗性に関する基礎的研究」 石川浩次、溝口昭二、大鹿明文 「兵庫県南部地震の神戸の地盤と被災状況調査」 ◎シンポジウム テーマ「応用地質と地形」 一般講演5編、参加者192名</p> <p>5.24 中国四国支部総会・特別講演 参加者117名</p> <p>6.15 関西支部総会・講演会 参加者93名</p> <p>7.24 第6回海外応用地質学調査団(中華人民共和国) ～8.3 IGCのコンgresツアーに参加、団長 小島圭二会長他41名</p> <p>10.11 第4、5回海外応用地質学調査団報告会(於 東京) 参加者50名、調査団報告書を2冊発刊</p> <p>10.17 斜面地質に関するシンポジウム(於 東京) テーマ「斜面地質学の研究動向と今後の展望」 一般講演7編 参加者128名</p> <p>10.25 講習会 本部・東北支部共催(於 仙台) テーマ「地質・地盤と地盤災害」参加者81名</p> <p>10.31 ～11.1 H8研究発表会 中国・四国支部共催(於 広島) 特別講演「近畿地方における活断層調査結果について」 杉山雄一、発表論文64編、参加者 209名</p> <p>学会誌第37巻第4号特集「兵庫県南部地震－応用地質学からの視点－」</p>	<p>1.10 「土木構造物の耐震基準等に関する第2次提言」土木学会</p> <p>2.10 北海道古平町の豊平トンネル大規模岩盤崩落事故 坑口部崩壊、バス乗客20名死亡</p> <p>2.17 インドネシアで地震(M7.5) 死者25人 父島で103cmの津波を観測</p> <p>3. 5 駒ヶ岳(北海道)が54年ぶりに噴火</p> <p>4. 1 気象庁が「気象庁震度階級関連解説表」を作成</p> <p>6. 3 科学技術庁防災科学研究所「全国強震観測」運用開始</p> <p>8. 4 第30回万国地質学会議(IGC)へ調査団派遣(於 北京) ～14 参加者20名</p> <p>8.11 宮城県北部地震(M5.9～5.4) 3回の地震が連続発生</p> <p>9.10 河川改修時におけるコンクリート護岸の使用禁止(建設省)</p> <p>9.12 地震調査研究推進本部が糸魚川－静岡構造線活断層系で数百年以内にM8程度の直下型大地震の可能性を指摘</p> <p>9.30 阪神大震災で倒壊した高速道路復旧</p> <p>10. 1 国土地理院が「都市圏活断層図(1/25000)」の市販開始</p> <p>10. 1 気象庁が47年ぶりに震度階級を改定</p> <p>10.15 伊豆半島東方沖で群発地震 伊東で最大震度4</p> <p>11. 5 学会名誉会員 北村 信氏逝去</p> <p>11.30 味噌川ダム竣工(水資源開発公団)、堤体積890万m³ 国内最高所のダム、堤頂標高1,130m</p> <p>12. 6 長野県小谷村で大規模土石流発生</p> <p>「トンネル標準示方書・同解説 開削編・シールド工法編山岳工法編」 土木学会 H8年 7月</p> <p>「道路橋示方書・同解説 耐震設計編」等 (社)日本道路協会 H8年12月</p> <p>「地震と土砂災害」建設省河川局砂防部監修 (財)砂防・地すべり技術センター編、砂防広報センター</p> <p>「NATM設計施工指針」日本鉄道建設公団編</p> <p>「東京都(区部)大深度地下地盤図－東京都地盤図集6」 東京都土木研究所編</p> <p>「地形学から工学への提言」日本地形学連合編</p> <p>「関東地方土地質図」関東地方土地質図編纂委員会編、 (財)国土開発技術研究センター</p>	<p>1.11 橋本龍太郎内閣発足</p> <p>1.19 社会党が党名を「社会民主党」に変更</p> <p>2.14 羽生善治名人が史上初の7冠独占を達成</p> <p>3.23 台湾初の総統直接選挙で李登輝総統が当選</p> <p>3.25 狂牛病の人間への感染の可能性を英政府が認める</p> <p>4. 1 東京三菱銀行発足</p> <p>4.12 日米両国政府が普天間飛行場を5年ないし7年以内に全面返還と発表</p> <p>5.11 エベレスト登頂に成功した難波康子さんが下山途中で遭難</p> <p>5.31 ネタニヤフ氏がイスラエル首相に就任</p> <p>5.31 サッカーワールドカップ(2002年) 日本と韓国の共同開催となる</p> <p>6.18 住専法可決(住専 不良債券6850億円処理に税金を投入)</p> <p>7.12 チャールズ皇太子とダイアナ妃が離婚</p> <p>7.19 アトランタオリンピック開催 ～8.4 日本は金3、銀6、銅5</p> <p>7.20 堺市の小学校で「O-157」集団中毒発生</p> <p>8. 4 渥美 清さん死去</p> <p>8.29 エイズ薬害問題で安部英前帝京大副学長逮捕</p> <p>9.10 国連総会が包括的核実験禁止条約(CTBT)を採択</p> <p>9.22 台風17号で関東、東北地方に被害 死者・不明11人</p> <p>9.28 民主党結成</p> <p>10.20 初の小選挙区比例代表並立制選挙の実施</p> <p>11. 5 米大統領選で民主党のクリントン大統領が再選</p> <p>11. 7 第2次橋本自民党単独内閣成立</p> <p>11.21 大蔵省が阪和銀行に業務停止命令</p> <p>12. 5 広島原爆ドームが世界遺産の文化リストに登録される</p> <p>12.17 ペルーの首都リマの日本大使公邸がMRTAに襲撃・占拠される</p> <p>12.26 新進党の羽田孜・元首相らが離党して太陽党を結成</p> <p>小選挙区比例代表並立制による初めての選挙 住専不良債権問題、薬害エイズ、厚生省の贈収賄事件 メークドラマ、アムラー</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成9年 (1997)</p>	<p>4.11 北海道支部総会・特別講演・特別報告 参加者138名 5.16 九州支部総会・講演会参加者164名 5.23 東北支部総会・特別講演 参加者147名 5.29 定例総会・シンポジウム 正会員2291名 (H8年度末) 賛助会員155社 IAEG会員214名 名誉会員に甲藤次郎、佐々木敏雄、柳治一の3氏推薦 (名誉会員18名) ホームページの開設、パソコン通信の導入準備 法人化に関して科学技術庁との協議継続 ◎ シンポジウム テーマ 「岩盤斜面の調査と評価技術」 特別講演「都市地盤防災地質図の必要性についての提言」 大矢 暁、一般講演 5編、参加者245名 6. 6 中国四国支部総会・特別講演 参加者110名 6.13 中部支部総会・見学会 参加者55名 6.14 関西支部総会・後援会 参加者62名 6.23 国際応用地質学会(IAEG)シンポジウム (アテネ) ～.27 団長 小島圭二会長他30名 IAEG出席に合わせて調査団2班編成 6.16 第7回海外応用地質学調査団 (トルコ班) ～22 アトリア断層、カッパドキア調査 参加者15名 6.28 (スイス班) ～7.6 トンネル・ダムを調査 参加者15名 10.21 H9研究発表会 北海道支部共催 (於 札幌) ～22 特別講演「無機物運動と生き物諸相・私の見た自然現象 から」東 三郎、発表論文69編、参加者214名 「地質調査法の問題点」改訂版第2巻 「ボーリングコアの観察／岩盤編」発刊 10.23 見学会 豊浜トンネル、沼前地すべり 参加者41名 11.14 第一回応用地質学アジアシンポジウム (於 東京) テーマ「ダムの地質」招待講演6編、一般講演7編 参加者150名 11.27 講習会 テーマ「地質・地盤と地震防災」(於 東京) 講演6編、参加者63名 学会誌第38巻特集号「応用地質における調査・解析技術の新展開」 学会事務局異動 渡辺事務局長</p>	<p>3. 3 伊豆半島東方沖で群発地震 3.22 秋田新幹線「こまち」が開業 3.22 「ほくほく線」開通— 六日町・犀潟間(全長59.5km、トンネル部40.3km)、 鍋立山トンネル等の難工事を克服、 着工より29年8ヶ月— 4.14 諫早湾干拓地で水門を閉鎖 4.17 第10回学協会共通問題に関する討論会 5.10 八幡平澄川・赤川温泉で大規模地すべり・土石流発生 5.10 イランで地震(M7.1) 死者1560人 7.10 鹿児島県出水市で大規模土石流発生 死者21人 7.11 地盤・水環境と気候変動シンポジウム 7.12 八甲田山の田代平高原で炭酸ガスにより自衛隊員3人が 中毒死亡 8.25 国道229号(北海道)第二白糸トンネル南坑口で大規模岩盤崩 落事故 幸いにも死傷者ゼロ 9.19 名誉会員 甲藤 次郎氏逝去 10. 1 長野新幹線「あさま」が開業 12. 1 地球温暖化防止会議が京都で開催 12. 6 安房トンネル開通(延長4.37km 総工費860億円) 岐阜県平湯・長野県中ノ湯間の通年通行が可能へ 12.18 東京湾アクアライン開通 「自然になじむ山岳道路-ダム付替道路の事例より考える- 建設省河川局開発課、土木研究所環境部監修、 (財) 国土開発技術研究センター 「日本地質図体系 近畿地方」地質調査所監修</p>	<p>1. 2 日本海でロシア船籍のタンカー・ナホトカ号が沈没 油流失により海岸汚染深刻化 1.31 公安審査委員会がオウム真理教に対する 破防法適用申請を棄却 2.19 鄧小平氏 死去 2.23 初のクローン羊誕生 3.11 東海村の動燃工場で爆発事故 4. 1 消費税率を5%に引き上げ 5. 1 英国で労働党圧勝 5.29 伊良部、ヤンキース入り 6.17 臓器移植法が成立 6.18 新EU条約を採択 6.20 主要国首脳会議 ロシアを加えて(G8)デンバーで開催 7. 1 香港が中国に返還 7. 2 東京湾原油流失事故(パナマ船籍・ダグ・イェント・グレース号) 8. 6 グアム島で大韓航空機墜落 8.31 ダイアナ元皇太子妃がパリで交通事故死 9. 5 マザー・テレサ死去 9.11 第2次橋本改造内閣が発足 9.23 日米、新防衛指針に合意 10.27 NY株式、過去最大の暴落 11. 1 日ロ首脳会談 11.16 サッカー・仏ワールドカップに日本出場決定 11.17 エジプトで観光客テロ 11.24 土井さん、日本人初の宇宙遊泳 11.24 山一証券が自主廃業申請と営業休止を決定 12. 8 金 大中氏韓国大統領に当選 12. 9 「ソニー」の創業者井深 大氏死去 12.21 名護市市民投票で米軍海上基地建設反対が53%となる 日本版ビックバン、金融危機、建設不況、公共投資削減 ポケモン、もののけ姫、</p>

年	学 会 活 動 史	関 連 事 項	一 般 社 会 史
<p>平成11年 (1999)</p>	<p>4 「斜面地質学」を発売 4.22 北海道支部総会・特別講演 参加者110名 5 「九州の大地とともに」を発売 5.12 見学会 茨城県小山ダム 参加者50名 5.14 九州支部総会・特別講演 参加者194名 5.14 東北支部総会・特別講演 参加者127名 5.27 定例総会・シンポジウム 正会員2387名 (H10年度末) 賛助会員144社 IAEG会員209名 ◎ シンポジウム テーマ 「地下水変動に関わる様々な要因と応用地質」参加者151名 5.28 中国四国支部総会・特別講演 参加者114名 6.4 中部支部総会・特別講演 参加者43名 6.16 関西支部総会・特別講演 参加者75名 8 「土地地質図作成マニュアル」を発売 10.27 H11研究発表会 九州支部共催 (於 鹿児島) ~28 特別講演「火山地域の土砂災害とその対策」下川悦郎、 発表論文87編、参加者210名 11.26 講習会 テーマ「斜面地質学」(本部ほか全国5支部) 9.23~ 第2回アジア地域応用地質学国際シンポジウム 25 市川会長ほか9名が参加 9.26~ 第9回海外応用地質学調査団(ネパール) 10.10 市川団長 参加者27名 学会誌第40巻特集号「現場の教訓・継承したい貴重な事例」</p>	<p>1.25 コロンビアで地震・M 6、死者1,000人 5.1 本州四国連絡橋「瀬戸内しまなみ海道」開通。 6.27 山陽新幹線福岡トンネルのコンクリート壁が剥落。 6.29 梅雨前線の影響で西日本を中心に大雨。 福岡市や広島県では浸水や土砂災害が発生した。 8.14 熱帯低気圧の影響により関東地方で大雨。 玄倉川で13人が死亡。 8.17 トルコ大地震・M 7.4、建物崩壊で16,000人死亡。 9.20 文部省、国立大学の独立行政法人化実施を表明。 9.21 集集地震(台湾大地震) M 7.7、2,000人以上が死亡。 9.24 台風18号が熊本県に上陸。 全国的に高潮や暴風で被害が出る。 10.30 上信越自動車道が全線開通。 11.12 トルコ北西部で地震・M 7.2、死者400人 12.4 山形新幹線、新庄へ延伸。</p>	<p>1.1 EUの単一通貨ユーロがフランス・ドイツなど11カ国で導入 (銀行間取り引きなどの通貨として)。 1.14 自自連立により、小渕1次改造内閣が発足。 2.28 臓器の移植に関する法律に基づく初めての脳死臓器移植が 実施される。 3.1 日産自動車、フランスのルノーと資本提携を結ぶ。 3.3 日本銀行、ゼロ金利政策実施。 3.23 日本海で不審船発見、威嚇射撃をするも北朝鮮の清津港に 逃走。(能登半島沖不審船事件)。 3.24 (1998年からの) コソボ紛争への制裁のため、NATO軍が ユーゴスラビアを空爆。6月10日停止。 4.11 統一地方選挙、石原慎太郎、東京都知事に当選。 横山ノックが大阪府知事に再選。 6.1 ソニーがロボット犬「AIBO」の発売を開始。 6.10 NATO、ユーゴ軍のコソボからの撤退合意で空爆停止。 6.30 改正労働者派遣法・改正職業安定法成立。 7.8 中央省庁等改革関連法、地方分権一括法が成立。 8.14 神奈川県山北町の玄倉川が増水。中州に取り残されたキャ ンプ客のうち、流された13人が死亡する玄倉川水難事故 が発生。 9.30 東海村JCO臨界事故発生。 茨城県東海村の核燃料施設JCOで日本初の臨界事故。2人死亡。 10.1 ロシア軍がチェチェン共和国に侵攻。 10.5 自民・自由・公明3党連立内閣発足。 12.21 マカオ、ポルトガルから中国に返還。 12.31 ロシアのエリツィン大統領が辞任。代行にプーチン首相を 指名。 12.31 パナマ運河、アメリカ合衆国からパナマに返還。 12.31 2000年問題の動向が注目される中の年越し。</p>

年	学 会 活 動 史	関 連 事 項	一 般 社 会 史
<p>平成12年 (2000)</p>	<p>4.14 北海道支部総会・特別講演 参加者70名 5.12 見学会 茨城県小山ダム 参加者42名 5.12 東北支部総会・特別講演 参加者142名 5.19 九州支部総会・特別講演 参加者190名 5.26 定例総会・シンポジウム 会 長 大島洋志 副会長 田中芳則 清水国夫 正会員2414名 (H11年度末) 賛助会員145社 IAEG会員206名 名誉会員に磯崎義正、井上康夫、岩橋 徹、白井慶治、 西川泰、林田精郎、三浦 清、持田 豊の8氏推薦 (名誉会員30名) 論文賞 2編 「地震時の地下水変動から推定される 淡路島北部地域の水理特性」 徳永朋祥 「未固結堆積物の定方位連続地層採取方法の開発と その応用」 原口 強・小島圭二 ◎ シンポジウム テーマ 「斜面ハザードマップの現状と課題」 特別講演「技術者の資格と教育」落合英俊 5.31 中国四国支部総会・特別講演 参加者110名 6.16 関西支部総会・特別講演 参加者71名 7.14 中部支部総会・特別講演 参加者76名 7.26 「1999C h i c h i 地震の応用地質学的側面」 「都市地震 防災のための都市深部地盤モデル」に関するシンポジウム 8.4 第10回海外応用地質学調査団 ～17 ブラジル、ペルー調査 参加者17名 10 「山地の地形学」を発刊 10.31 H12研究発表会 関西支部共催 (於 京都) ～11.1 特別講演「文化財と地震防災」土岐憲三、 発表論文91編、参加者234名 11.10 講習会 「山地の地形工学」発刊に伴う講習会(於 東京) 学会誌第41巻特集号「21世紀の応用地質」</p>	<p>1.23 吉野川可動堰の可否を巡る住民投票が徳島市で実施。 反対得票率90%以上となり徳島市、可動堰建設計画頓挫。 3.11 徳島自動車道が全線開通。 3.31 有珠山が28年ぶりに噴火。 7.28 四国縦貫自動車道が全線開通 7.1～8.18 新島・神津島・三宅島近海で地震 – M 6.5が2回 (7月1、30日)、M 6.3が1回 (7月15日)、 最大震度：6弱の地震を6回観測 (7月1、9、15、30日に各1 回、8月18日に2回)、死者1人。約1ヶ月後に三宅島が噴火。 地震活動は6月26日から始まった。 10.6 鳥取県西部地震・本震は M 7.3、 鳥取県西部で最大震度：6強。 10.7 関東最大の多目的ダム、宮ヶ瀬ダム (中津川) が完成。 富郷ダム (銅山川) が完成、吉野川総合開発事業が完了。 2.28 アラビア石油、サウジアラビア分採掘権が失効。</p>	<p>1.1 パナマ運河、パナマに返還。 2.6 大阪府知事選で太田房江当選。 3.8 営団地下鉄 (現・東京地下鉄) 日比谷線中目黒駅で 脱線事故 (営団日比谷線脱線衝突事故)。 5人が死亡、60人以上が重軽傷。 4.2 小淵恵三総理大臣、脳梗塞で緊急入院 (4日、小淵内閣が総辞職)。その後、5月14日死去。 4.3 保守党結成 4.5 森喜朗が日本の第85代内閣総理大臣に指名される。 5.3 西鉄バスジャック事件発生。 5.7 プーチンがロシア大統領に就任。 5.15 森喜朗総理大臣、神の国発言 6.1 大規模小売店舗立地法が施行。 6.6 香川県豊島の住民と県、不法投棄につき合意。 6.10 群馬県新田郡尾島町 (現・太田市) の化学工場で爆発事故 が発生、死者4人、けが人多数。 6.25 第42回衆議院議員総選挙 (6月13日公示)。 6.29 雪印集団食中毒事件発覚 6.30 建設省入札疑惑につき中尾栄一元建設相を受託収賄容疑で 逮捕。 7.12 そごうが民事再生手続開始の申立て。 7.21 九州・沖縄で第26回主要国首脳会議 (九州・沖縄サミット) が開催される。7月23日まで。 7.25 コンコルド墜落事故。 パリ郊外のホテルに激突して114人死亡。 8.25 与党3党、公共事業見直しを求める勧告案に合意。 9.6 露プーチン大統領来日。 9.15 シドニーオリンピック開幕。 9.27 ハザマ、第一勧銀などと債権放棄につき合意発表。 10.1 国勢調査 10.10 筑波大学名誉教授の白川英樹にノーベル化学賞を贈られ ることが決定される。 10.12 朱鎔基首相来日。 11.4 前期旧石器時代の文化が日本にも存在していたとして注 目された、宮城県築館町 (現・栗原市) の上高森遺跡の 捏造が発覚。 11.11 オーストリアケーブルカー火災事故。トンネル内の火災で 日本人ツアー客10人含む155人が死亡。 11.27 名古屋地裁、名古屋南部大気汚染公害訴訟で国・企業に賠 償命令。 12.1 原発振興法成立。</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成13年 (2001)</p>	<p>3 「都市地震防災のための深部地盤モデル」最終報告書 (社)全地連共著) を発刊</p> <p>3.6 北陸支部総会・特別講演 参加者29名</p> <p>4 CD-ROM版「写真で見る応用地質—地形・地質と斜面 災害」を発刊</p> <p>6.7 北海道支部総会・特別講演</p> <p>5.17,18 見学会 第二東名 森・掛川IC工事、 大谷崩れ及び坂本地すべり 参加者25名</p> <p>5.17 九州支部総会</p> <p>5.31 東北支部総会・特別講演</p> <p>5.25 定例総会・シンポジウム 正会員2424名 (H12年度末) 賛助会員147社 IAEG会員201名 名誉会員に中島秀雄氏推薦 (名誉会員31名)</p> <p>◎ シンポジウム テーマ 「応用地質分野における物理探査 の再評価」 「地震被害と地質・地盤情報」 特別講演「弾性波速度分布によるトンネル岩盤の事前予測 と施工時の岩盤評価との関係」 中川浩二</p> <p>6.1 中国四国支部総会・特別講演 参加者121名</p> <p>7.6 中部支部総会・特別講演</p> <p>6.8 関西支部総会・特別講演 参加者69名</p> <p>9.3-5 第3回アジア地域応用地質学国際シンポジウム 井上国際委員長ほか12名が参加</p> <p>10.31 H13研究発表会 東北支部共催 (於 郡山) ～11.1 特別講演「磐梯山の最新の活動と火山噴火予知の現状」 浜口博之、発表論文90編、参加者233名</p> <p>10.9 講習会 「トンネル工事のための土木地質学」(於 東京) 参加者201名</p> <p>学会誌第42巻特集号「デジタル時代の応用地質」</p>	<p>1.6 中央省庁再編により建設省、運輸省・北海道開発庁・国土 庁と合併し国土交通省が発足。</p> <p>1.13 エルサルバドルで地震・M 7.6、死者3,000人</p> <p>1.26 インド西部地震。グジャラート州で M 7.9。2万人強が死亡。</p> <p>2.20 長野県の田中康夫知事、県議会で「脱ダム宣言」。</p> <p>3.24 芸予地震・本震は M 6.7 (4月23日改訂・旧M 6.4)、 広島県南部で最大震度：6弱、死者2人。</p> <p>3.27 諫早水門長期開放へ。</p> <p>9.26 千葉県知事、三番瀬埋め立て中止表明。</p>	<p>1.6 中央省庁再編。1府12省庁制となる。</p> <p>1.20 ジョージ・W・ブッシュがビル・クリントンの後を継いで アメリカ合衆国大統領に就任。</p> <p>2.9 ハワイ沖で愛媛県宇和島水産高の実習船「えひめ丸」が米 海軍の原子力潜水艦グリーンヴィルと衝突して沈没、9人が 行方不明に(えひめ丸事件)。</p> <p>2.22 コロンビアで矢崎総業の現地法人「矢崎シーメル」社の日 本人副社長がコロンビア革命軍に誘拐される。約2年9ヵ月 後に遺体で見発見。</p> <p>3.25 千葉県知事に無党派、堂本暁子当選。</p> <p>3.28 米、地球温暖化防止の京都議定書から離脱。</p> <p>4.1 情報公開法施行。</p> <p>4.26 第1次小泉内閣発足。</p> <p>5.1 浦和・大宮・与野の3市合併でさいたま市誕生。</p> <p>6.8 大阪教育大附属池田小児童殺傷事件</p> <p>6.21 経済財政諮問会議、 経済財政基本方針(骨太の方針)を決定。</p> <p>7.21 明石市のJR山陽線朝霧駅の歩道橋で花火大会の見物客が将 棋倒しになり、11人死亡。</p> <p>7.29 第19回参議院議員選挙(7月12日公示)。</p> <p>8.29 H-IIAロケット試験機1号機が打ち上げられる。</p> <p>9.10 日本国内初の狂牛病(BSE)感染牛が発見される。</p> <p>9.11 アメリカ同時多発テロ事件</p> <p>10.3 東京地裁、小田急線の高架化工事につき事業認可処分を違 法と判決。</p> <p>10.7 アメリカ軍によるアフガニスタン侵攻開始(タリバン政権 に対する戦争)。</p> <p>12.23 アルゼンチン政府が対外債務の一時支払い停止を宣言。</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成14年 (2002)</p>	<p>4.17 北海道支部総会・特別講演 参加者33名 5.17 九州支部総会・特別講演 5.31 東北支部総会・特別講演 参加者32名 5.24 定例総会・シンポジウム 会 長 大島洋志 副会長 井上大榮 江崎哲郎 正会員2438名 (H13年度末) 賛助会員134社 IAEG会員195名 名誉会員に相原安津夫、永峰良則、羽原俊行の3氏推薦 (名誉会員32名) 論文賞 2編 「土砂トンネルの切羽安定性評価に基づく地山分類法」 木谷日出男 「黄鉄鉱を含む堆積岩の溶水酸性化ポテンシャルに関する 実験的検討」 五十嵐敏文・大山隆弘 ◎ シンポジウム テーマ 「最近の岩盤分類に関する技術動 向と今後の展望」 特別講演「明石海峡大橋の地盤と基礎」吉中龍之進 5.31 見学会 水資源公団 滝沢ダム、参加者43名 6.5 中国四国支部総会・特別講演 参加者146名 6.5 中部支部総会・特別講演 参加者78名 6.7 関西支部総会・特別講演 参加者71名 6.26 北陸支部総会・特別講演 参加者21名 9.6 講習会「地形で読む山地の地質」(於 大阪) 参加者62名 9.14 第11回海外応用地質学調査団 ～28 南アフリカ巡検 参加者15名 10.31 H14研究発表会 中四国支部共催 (於 高松) ～11.1 特別講演「石と人の美しき出会い」前田 仁、発表論文 116編、参加者292名 12.13 講習会「トンネル工事のための土木地質学」(於 福岡) 学会誌第43巻特集号「環境と応用地質」</p>	<p>3.25 アフガニスタン北部で地震・M 6、死者1,000人 小泉純一郎内閣、「骨太の方針」に従い公共事業総点検を 開始。10年以上事業が進捗していないダム事業の多くが計 画中止・休止となる。 5.21 衆院、地球温暖化防止の京都議定書を承認。 8.13 ヨーロッパで大洪水発生。 12.1 東北新幹線盛岡駅～八戸駅間延長開業。 12. 熊本県の潮谷義子知事、県営荒瀬ダム(球磨川)を水利権失 効後に解体・撤去する方針を表明。</p>	<p>1.1 欧州単一通貨ユーロ、12カ国で流通開始。 1.9 首相、ASEAN 5カ国歴訪(～15)。 1.29 ブッシュ大統領が悪の枢軸発言をする。 2.8 ソルトレイクシティオリンピックが開幕(～22日)。 2.17 ブッシュ大統領来日。 5.20 東ティモールが主権国家として独立。 21世紀初の独立国誕生。 5.28 経済団体連合会(経団連)と日本経営者団体連盟(日経連) が統合、日本経済団体連合会(日本経団連)が発足。 5.31 FIFAワールドカップ開幕(～6月30日)。 6.12 G8外相会議、カナダで開幕。 8.5 住民基本台帳ネットワーク開始 9.10 スイスが国連に加盟、27日には東ティモールも加盟し国連 の加盟国は191ヶ国になった。 9.17 小泉純一郎首相が訪朝。金書記長、日朝首脳会談で、日本 人拉致問題を公式に認める。 10.8 小柴昌俊東京大学名誉教授にノーベル物理学賞、翌日 には田中耕一島津製作所社員にノーベル化学賞の受賞が決 定する(日本人の同年ダブル受賞は初めて)。 10.12 バリ島で爆弾テロ事件発生。日本人含む190人以上が死亡 した。 10.15 拉致被害者5人が帰国。 12.19 韓国の第16代大統領に盧武鉉が当選する。</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
<p>平成15年 (2003)</p>	<p>4 「応用地質計測 ー手法と解釈・評価ー」を発売 4.18 北海道支部総会・特別講演 参加者81名 4.25 北陸支部総会・特別講演 参加者34名 5.16 九州支部総会・特別講演 5.23 東北支部総会・特別講演 参加者116名 5.23 中国四国支部総会・特別講演 参加者135名 5.24 中部支部総会・特別講演 参加者47名 5.30 定例総会・シンポジウム 正会員2388名 (H14年度末) 賛助会員127社 IAEG会員186名 ◎ シンポジウム テーマ「地盤環境の調査・評価技術の現状」 特別講演「応用地質分野におけるGIS技術の活用」江崎哲郎 6.5 関西支部総会・特別講演 参加者65名 6.6 見学会 大谷石採掘跡地観測所・採掘現場、参加者25名 10.16 H15研究発表会 北海道支部共催 (於 札幌) ~17 特別講演「有珠山噴火災害の復興における技術的課題」 岡田 弘、発表論文132編、参加者263名 講習会 「電子地質図の作成基礎講座」(於 東京) 参加者80名 学会誌第44巻特集号「海外の応用地質」</p>	<p>3.30 高松自動車道が全線開通。 5.16 福岡高裁, 川辺川利水訴訟で原告農家側逆転勝訴の判決。 5.26 宮城県沖で地震 (東北地震、三陸南地震) 本震は M 7.1、岩手県・宮城県で最大震度: 6弱。太平洋プレート内の地震。 7.7 能登空港開港。 7.20 九州地方で集中豪雨が発生、死者23人。 7.26 宮城県北部地震 - 本震は M 6.4、宮城県北部で最大震度: 6強。(このほかにも、前震と余震で、それぞれ1回ずつ震度6弱を記録) 負傷者700人以上、およそ5000戸の住宅が被害。 9.26 十勝沖地震 - 本震は M 8.0、北海道で最大震度: 6弱、死者2人。同日発生の最大余震も M 7.1、最大震度: 6弱。 10.1 独立行政法人発足。 10. 電源開発株式会社、民営化が決定 (翌年民営化、東証一部に株式公開)。 12.26 イラン、ケルマーン州バムで M 6.7の大地震。建物崩落でおよそ3万人が死亡し、アルゲ・バム遺跡も崩壊した。</p>	<p>1.10 北朝鮮が核拡散防止条約(NPT)脱退を宣言。 2.1 アメリカ航空宇宙局、スペースシャトル・コロンビア号、帰還のため大気圏突入後、テキサス州上空で空中分解、墜落。宇宙飛行士7名全員死亡。 2.24 北朝鮮が地对艦ミサイルを日本海に向け発射 (3月10日にも発射)。 3.19 アメリカ・イギリスによるイラク侵攻作戦開始 (イラク戦争開戦)。 3月頃から中国で新型肺炎SARSが大流行、死者700人超。 4.1 平成の大合併。 4.1 郵政事業庁が日本郵政公社に。 4.13 統一地方選挙, 石原都知事再選。 4.27 衆院補欠選挙。 5.1 ヨルダンのアンマン国際空港の手荷物検査場で、毎日新聞の記者が取材の記念に持ち帰ろうとした手榴弾が爆発、空港職員1人が死亡。 5.23 個人情報保護法が参議院本会議で可決され、成立する。 6.6 盧武鉉 (ノ・ムヒョン) 韓国大統領、国賓として来日、天皇と会見。(~9日) 6.10 政府はりそなホールディングスに対して1兆9600億円の公的資金注入を決定。 8.14 アメリカ・カナダで東部を中心に大規模な停電 (北アメリカ大停電、BLACKOUT 2003)。 8.31 沖縄で非番中の自衛官が不発ロケット弾により爆死、後に大量の武器弾薬が同自衛官宅などで発見される。 9.15 阪神が、18年ぶりセ・リーグの優勝決める。 9.16 自民党総裁再選を受け、小泉再改造内閣が成立。 10.1 東海道新幹線の東京駅~新横浜駅間に品川駅が開業。 10.7 カリフォルニア州知事に俳優・アーノルド・シュワルツェネッガーが当選。 10月 鳥インフルエンザ感染発生 11.9 第43回衆議院総選挙、投票即日開票。与党3党、絶対安定多数を確保 (11月19日、第二次小泉内閣) 11.24 コロンビアで2001年2月に誘拐され、コロンビア革命軍が身代金を要求していた日本企業の現地法人副社長が射殺遺体で見つかる。 11.29 地方銀行上位行の足利銀行 (本店・栃木県宇都宮市) が、特別危機管理銀行の認定を受け経営破綻、一時国有化。 12.1 地上デジタルテレビジョン放送が東京、大阪、名古屋で放送開始。 12.13 アメリカ軍がサッダーム・フセインイラク元大統領を拘束。</p>

年	学会活動史	関連事項	一般社会史
平成17年 (2005)	<p>2.5 報告会 「平成16年新潟県中越地震災害調査報告会」(地すべり学会と共催) 参加者125名</p> <p>3.5 講演会 「活断層と地震の予測」(技術士会と共催) 参加者223名</p> <p>4.15 北海道支部総会・特別講演 参加者23名</p> <p>5.13 九州支部総会・特別講演 参加者86名</p> <p>5.20 東北支部総会・特別講演 参加者120名</p> <p>5.20 中国四国支部総会・特別講演 参加者34名</p> <p>5.20 関西支部総会・特別講演 参加者65名</p> <p>5.27 定例総会・シンポジウム 正会員2286名 (H16年度末) 賛助会員115社 IAEG会員169名</p> <p>◎ シンポジウム テーマ 「地形工学の新たな展開-新潟中越地震災害の実態を踏まえて-」 特別講演「応用地質学のための地形図読図」 鈴木隆介 参加者130名</p> <p>5.28 中部支部総会・特別講演 参加者25名</p> <p>6.3 北陸支部総会・特別講演 参加者22名</p> <p>11.29 合同シンポジウム「付加体と土木地質-地質図の有効性と限界-」参加者150名</p> <p>10.27 H17研究発表会 中部支部共催(於 名古屋) ~28 特別講演「東海・東南海地震の地震動および津波災害について」安藤雅孝、発表論文136編、参加者285名</p> <p>12.9 講習会 「付加体と応用地質の関わり」(産総研との共催)(於 つくば) 現地研修会 茨城県御前山ダムサイト 参加者28名</p> <p>学会誌第46巻特集号 「2004年(平成16年)新潟県中越地震および豪雨災害」 「応用地質における地形情報の活用」</p>	<p>2.17 中部国際空港(セントレア)が愛知県常滑市沖合に開港。</p> <p>3.20 福岡県西方沖地震・本震はM 7.0、福岡県・佐賀県で最大震度:6弱、死者1人。</p> <p>3.25 愛知万博が開催(〜9月25日まで)</p> <p>3.28 スマトラ島沖地震・インドネシア、スマトラ島沖で大きな地震。M 8.6。震源地に近いニアス島などで1,000~2,000人が死亡。</p> <p>7.3 小笠原諸島の南硫黄島沖の「福德岡ノ場」と呼ばれる海底火山が噴火する。</p> <p>8. 全国的大渇水で各地のダムが枯渇。早明浦ダムの貯水率が0%となり連日報道される。</p> <p>8.16 宮城県南部地震・M 7.2、宮城県で最大震度:6弱。宮城県沖地震とは別の地震。</p> <p>8.24 つくばエクスプレス線が開通</p> <p>10.1 道路関係四公団が民営化。</p> <p>10.8 パキスタン地震。・M 7.6、死者約10万人 億首ダム(億首川)、世界初の台形CSGダムとして建設が開始される。</p>	<p>1.11 青色発光ダイオード訴訟で発明者に対し1審より大幅減の8億円を支払うことで和解。</p> <p>1.20 ジョージ・W・ブッシュが2期目のアメリカ合衆国大統領に就任。</p> <p>2.1 三宅島の避難指示が15時に解除され、4年5ヶ月ぶりに帰島を果たす。</p> <p>2.16 京都議定書発効。</p> <p>2.26 H-IIAロケット7号機が無事に打ち上げられ、運輸多目的衛星新1号(3月8日、愛称「ひまわり6号」と命名)が軌道に投入される。</p> <p>3.25 愛知万博が開幕(9月25日まで開催)</p> <p>4.1 ペイオフ完全施行。個人情報保護法施行。</p> <p>4.2 ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世が死去。</p> <p>4.19 新ローマ教皇が決定。ベネディクト16世と名乗る。</p> <p>4.25 JR福知山線脱線事故が起こる。運転士含め死者107人・負傷者555人とJR史上最悪の鉄道事故となる。</p> <p>5.1 北朝鮮が日本海に向けて地对艦ミサイルを発射</p> <p>5.23 日本道路公団が発注する鋼鉄製の橋梁の工事にあたり、工事に携わったメーカーで談合</p> <p>6.26 茨城県水海道市の養鶏場で、国内初のH5N2型の鳥インフルエンザが検出される。</p> <p>6.29~ 建材を製造している企業や建設業などで、従業員や家族がアスベスト(石綿)が原因とみられる中皮腫などによって多数、死亡していたことが公表される。</p> <p>7.7 ロンドン同時爆破事件が発生。地下鉄3ヶ所とバス1台が被害に遭い、死者は55人、負傷者は1,000人以上。</p> <p>7.26 日本人宇宙飛行士野口聡一が搭乗したスペースシャトル「ディスカバリー」の打ち上げに成功。2週間のミッションを終え、8月9日に地球に帰還</p> <p>8.8 郵政民営化関連法案が参議院で否決。これを受けて第2次小泉改造内閣は衆議院を解散。</p> <p>8.26 ハリケーン「カトリーナ」が米国上陸。死者約1,200人。原油価格は高騰し、ブッシュ政権の支持率は急落。</p> <p>9.11 第44回衆議院議員総選挙</p> <p>9.17 民主党代表選で、前原誠司氏、代表に選ばれる。</p> <p>9.21 第163回特別国会召集。第3次小泉内閣が発足。</p> <p>10.1 日本原子力研究所と核燃料サイクル開発機構が統合し、日本原子力研究開発機構が発足。</p> <p>10.14 郵政民営化関連法案が成立。</p> <p>11.17 耐震強度偽装事件が発覚。姉齒建築設計事務所による構造計算書</p> <p>11.26 惑星探査機はやぶさが小惑星イトカワへの着陸と岩石の採取に成功。</p>

年	学 会 活 動 史	関 連 事 項	一 般 社 会 史
平成19年 (2007)	<p>4.18 北海道支部総会・特別講演 参加者88名</p> <p>5.11 関西支部総会・特別講演 参加者59名</p> <p>5.11 中国四国支部総会・特別講演 参加者35名</p> <p>5.11 九州支部総会・特別講演 参加者119名</p> <p>5.12 中部支部総会・特別講演 参加者24名</p> <p>5.18 東北支部総会・特別講演 参加者128名</p> <p>5.25 定例総会・シンポジウム 正会員2157名 (H18年度末) 賛助会員106社 IAEG会員153名</p> <p>◎ シンポジウム テーマ 「地質調査と設計・施工を結ぶ コーディネート機能としての岩盤分類」 特別講演「既存の岩盤分類の考え方・利用の変遷, および 地盤工学会の岩盤分類とその動向」伊藤 洋</p> <p>6.15 北陸支部総会・特別講演 参加者32名</p> <p>9.7 シンポジウム「最新の災害に対する研究-安全・安心の ために-」(全地連フォーラム)</p> <p>10.11 H19研究発表会 関西支部共催(於 大阪) ～12 特別講演「近年の地震による地すべり」千木良雅弘、 発表論文135編、参加者269名</p> <p>10.15 第6回応用地質学アジアシンポジウム(於 ソウル) ～17 井上会長ほか43名が参加</p> <p>11.3 現地研修会 「新潟県中越地震による旧山古志村の被災 状況と復旧」 参加者37名</p>	<p>2. 嘉田滋賀県知事、ダム事業凍結を事実上撤回。県営ダム事業再開を発表する。</p> <p>3.25 能登半島地震 - 震源は石川県能登沖。M 6.9、最大震度:6強。北陸地方を中心に強い揺れ。死者1人。</p> <p>7.16 新潟県中越沖地震・M 6.8、新潟県・長野県で最大震度:6強。死者15人。</p>	<p>1.1 潘基文が新国際連合事務総長に就任。</p> <p>1.14 日本の安倍晋三総理大臣、フィリピン・セブ島のホテルで、日中韓首脳会談に出席。北朝鮮の核兵器放棄を求める共同声明を発表。</p> <p>2.3 イラク・バグダードでイラク戦争後最大規模の自爆テロ発生。130人以上が死亡、300人以上が負傷。</p> <p>2.5 中国の海洋調査船が尖閣諸島・魚釣島付近で無断海洋調査。</p> <p>3.13 安倍首相、「安全保障協力に関する日豪共同宣言」に署名。</p> <p>4.16 バージニア州のバージニア工科大学構内で、32人死亡、15人負傷とアメリカ合衆国史上最悪となる銃乱射事件発生。</p> <p>4.30 麻生外務大臣、アメリカ合衆国国務省でライス国務長官と会談。</p> <p>5.15 ニコラ・サルコジ新フランス大統領就任。</p> <p>5.17 朝鮮半島分断以来、初めて韓国・ムン山と北朝鮮・開城を結ぶ列車が試験運行される。</p> <p>7.29 日本の参議院議員通常選挙で与党自民党が大敗し、民主党が参議院第一党になる。</p> <p>8.1 アメリカ・ミネソタ州ミネアポリスでミシシッピ川にかかる高速道路のアーチ型の橋が崩落、多数の死傷者が出る。</p> <p>8.20 中華航空機が那覇空港で爆発炎上。乗客・乗員165人無事脱出。</p> <p>9.8-9 オーストラリア・シドニーでAPEC首脳会議開催。</p> <p>9.12 安倍首相が突然内閣総理大臣辞任を表明。</p> <p>9.14 日本の月探査衛星「かぐや」、打ち上げに成功。</p> <p>9.18 ミャンマーでの軍事政権への抗議行動に僧侶たちが加わり、反政府デモへと発展。</p> <p>9.26 福田康夫が新内閣総理大臣に就任。</p> <p>10.12 建築家黒川紀章氏、死去。</p> <p>10.19 パキスタンでブット元首相を狙った爆弾テロが起き、136人が死亡。</p> <p>11.24 オーストラリアで総選挙で労働党が勝利。ケビン・ラッド労働党党首がオーストラリア首相となる。</p> <p>12.19 韓国大統領選挙で、李明博が次期大統領に選出される。</p> <p>12.24 ネパール政府、240年続いた王制を廃止、共和制を導入することを発表。</p> <p>12.27 パキスタンのブット元首相が暗殺される。</p>